

# ひろとくろく 港北

港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画



港北区キャラクター ミズキー

港北区役所・港北区社会福祉協議会  
《計画期間：平成23年度～平成27年度》

## はじめに

今日、「無縁社会」「孤独死」という言葉に見られるように、人と人とのつながりを感じる機会が少ないように思います。しかし、実は誰もが、普段の暮らしの中で身近な人たちと互いに支えあう関係を求めているのではないのでしょうか。

こうした支えあいの中で身近な生活課題を解決していくために、港北区役所(以下「区役所」という。)では「港北区地域福祉保健計画」、港北区社会福祉協議会(以下「区社協」という。)では「地域福祉活動計画」を進め、地域の中で顔の見えるネットワークをつくり、住民同士で身近な生活課題の解決を図ってきました。

この度、この2つの計画が一つになり、さらなる地域の福祉保健の向上を目指して「ひとつプラン港北」はできました。

この計画の最大の特徴は、区民の皆さんが作った計画であるということです。区内13地区それぞれの住民で構成される委員会で、自分たちのまちをどんなまちにしたいか議論を重ねて計画にしました。どの計画も実際にその場所に住む皆さんが作った計画なので、地域の特徴を踏まえたより身近な内容になっています。

区民の皆さん一人ひとりが主役となり、区役所・区社会福祉協議会をはじめとした関係機関と協力しながら計画を進め、より良い港北区にしていきたいと思います。



### 「ひとつプラン港北」って何?

「ひとつプラン港北」は、「港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画」の愛称です。

愛称は、区民の皆さんの応募作品の中から、計画のキーワードである、担い手が《ひろがる》、活動が《つながる》、情報・サービス、支援の手が《とどく》の3つの頭文字「ひ」「つ」「と」をつなげ、ヒットヒットで確実に計画が繋がって進んでいくようお願いを込められた「ひとつプラン港北」に決定しました。



## 自分たちの手で、 安心して暮らせるまち港北に。

【左から、柏崎港北区長、大原区社協会長】

港北区では「暮らしつづけたいまち港北」を目指して、平成18年3月に「港北区地域福祉保健計画」を策定しました。以来この5年間、新たな活動も立ち上がるなど、地域ではたくさんの福祉保健活動が活発に展開されました。しかし、担い手不足解消や団体同士の連携の強化など、課題はまだまだ山積みです。「ひっとプラン港北」は、こうした課題の解決を目指したものです。

策定にあたっては、地区別計画の策定にあられた地域の方、計画の素案にご意見をいただいた区民の方など、本当に多くの方々にご尽力いただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

この計画は、地域の皆さんが中心となって進める計画です。区役所は、区社会福祉協議会や地域ケアプラザなど関係機関と連携して、地区別計画の支援と各地区共通の課題解決に向けて総力を挙げて取り組んでまいります。

区民の皆さん！ 今後とも「誰もが安心して暮らせるまち港北」を目指して、一緒に計画を推進していきましょう！！

港北区長 柏崎 誠



港北区社会福祉協議会では、平成7年度に地域福祉活動計画を策定し、5か年単位で第3次計画まで区民の皆さまとともに区全域を対象とした計画を推進してきました。今回、区社協の活動計画としては、初めて地区別の計画が策定されたこととなります。住民の方々が主体となり「自分達のまちは自分達で良くしていこう」という気持ちで、課題の把握、目標・取組の設定を行っていただきました。

近年、近隣関係の希薄化や児童・高齢者虐待問題など地域社会において様々な問題が見られます。こういった問題を解決するため、地域住民一人ひとりが自分の問題としてとらえ、何ができるかを考えていく必要があると考えます。その何ができるかを考えるきっかけ、手段として「ひっとプラン港北」が役立つ事を願っています。

最後になりましたが、地区別計画策定に関わって頂いた皆さま、「ひっとプラン港北」策定委員会、地区別計画検討部会、計画にご意見をいただいた皆さまに厚くお礼申し上げます。

特に、検討部会で地区別準備会へもご出席いただいた委員の皆さまには、重ねてお礼を申し上げます。

横浜市港北区社会福祉協議会 会長

大原日直

# 目 次

## 第1章 港北区の姿

1 港北区の特徴	1
2 人口推移	1
3 少子高齢化の状況	2
4 障がい児・者の状況	3
5 区民意識調査より	3

## 第2章 前計画の成果とふり返り

1 港北区地域福祉保健計画（港北FFF《こうほくトリプルエフ》）	5
2 （新）港北区地域福祉活動計画（D o i t !）	7

## 第3章 「ひっとプラン港北」の特徴

1 基本理念	9
2 「ひっとプラン港北」の構成	9
3 推進の柱と課題解決のキーワード	10
4 計画の進め方	12

## 第4章 「ひっとプラン港北」の推進

1 13地区ごとの地区別計画	13	
★ ひっとコラム 【地区別計画はこうしてできました】	15	
2 各地区別計画	16	
●日吉地区	光と活力に満ちあふれる日吉	16
	～一つひとつの活動が光り、大きな活力に発展するまち～	
●綱島地区	元気でふれあうまち 綱島	20
●大曽根地区	ハートフル 大曽根	24
●樽町地区	思いあいのまち 樽町	28
●菊名地区	みんなで支えあうまちづくり	32
●師岡地区	わが町師岡	36
	—安全・安心・住みよい町づくり—	
●太尾地区	「あいの町太尾」	40
	—ふれあい・支えあい・助けあい—	

●篠原地区	「わがまち篠原」	44
●城郷地区	たすけあうまち城郷	48
●新羽地区	「和・輪・話」のまち につば 平和・福祉の「和」、みんなが手をつなぐ「輪」、 みんなが話し合う「話」	52
●新吉田地区	いいな！みんなのまち新吉田	56
●新吉田あすなろ地区	もっと・ホットに「あすなろ」	60
●高田地区	みんなが笑顔、助け合いのまち高田	64
<b>★ひっとコラム 【ご存知ですか？地域を支えている様々な人や団体がいることを】</b>		68
3	地域ケアプラザの地域支援	69
<b>★ひっとコラム 【困ったときに相談できる場所は？】</b>		70
4	区全体計画	71
(1)	地区別計画の支援	71
<b>★ひっとコラム 【え！全日制高校の進学率が56.3%？】</b>		74
(2)	区全体での取組	75
<b>★「ひっとプラン港北」ができるまで</b>		78

「ひっとプラン港北」策定委員会 委員名簿

「ひっとプラン港北」地区別計画検討部会 委員名簿

# 第1章 港北区の姿

## 1 港北区の特徴

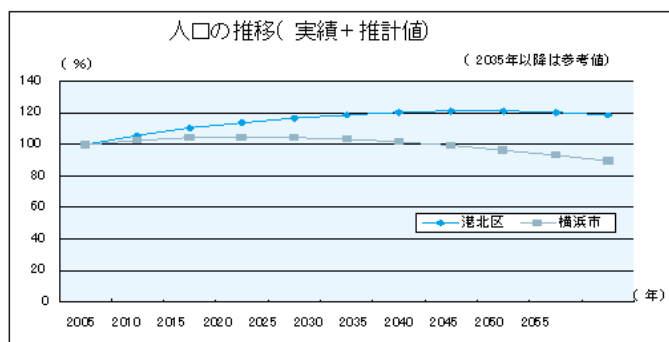
### ■ ベッドタウン、商業地域、通勤通学地で人の移動が多い区です。

港北区は横浜市の北部に位置し、東京方面等のベッドタウンであると同時に、新横浜地区の商業地域や日吉地区の大規模な大学など通勤通学地の側面をあわせもっています。このため、社会移動の転出入による人口増加が特徴的で、区外からの流入流出人口は他の区に比べて多くなっています。

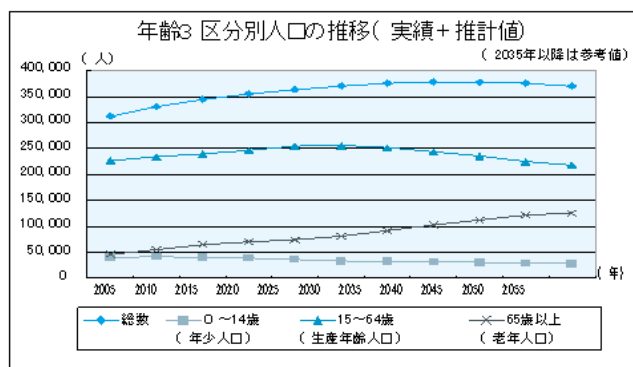
## 2 人口推移

### ■ 人口は2040年頃まで増え続けます。

横浜市の「将来人口推計」によると、本市の人口のピークは2020年頃（推計375万人）ですが、港北区は現在32万人を超える人口が、2040年頃に38万人近くまで増加することが予想されます。



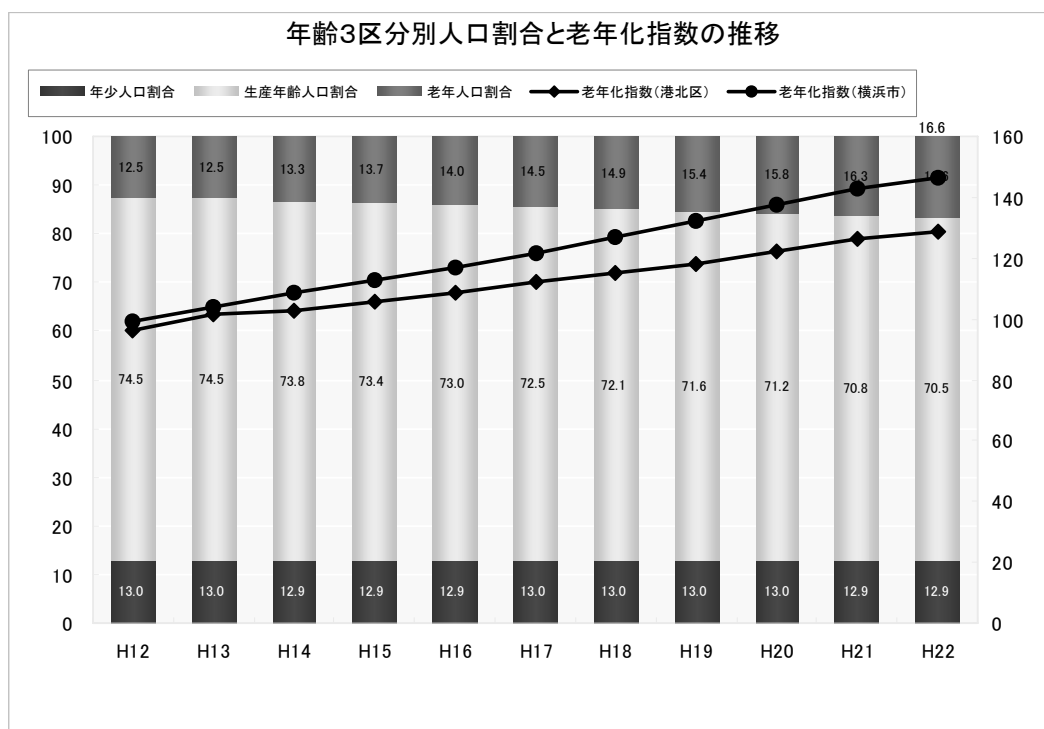
※基準値として2005年の国勢調査の結果を100%としています



<引用> 平成22年度 港北グラフィック

### ■ 生産年齢人口割合が高く、高齢人口割合が低い、若い区です。

総人口に対する生産年齢（15～64歳）の割合が70.5%と市内18区中で二番目に多く、特に20歳台から30歳台の人口が多いのが特徴です。



<引用> 平成22年度 港北グラフィック

## ■ 少人数世帯化・核家族化が進んでいます。

平成17年の国勢調査によると単身世帯数は、約5万2千世帯と市内で最も多く、少人数世帯化が進んでいます。また、高齢者の単身世帯も年々増加しています。

### 3 少子高齢化の状況

## ■ 市内で一番多くの赤ちゃんが生まれています。

区内の出生については、平成21年1年間で3,353人と市内で一番の出生数ですが、出生率はほぼ横ばいです。

## ■ 中学生以下のこどもは約42,000人います。

0歳から14歳の年少人口割合は12.6%と市内の平均(13.3%)を下回っていますが、年少人口は市内で2番目に多い約4万2千人です。年少人口割合の高いのは沿線部や大型マンションの建設されている地域に集中しています。

## ■ 高齢化率は低いが、高齢者人口は18区中3番目に多い区です。

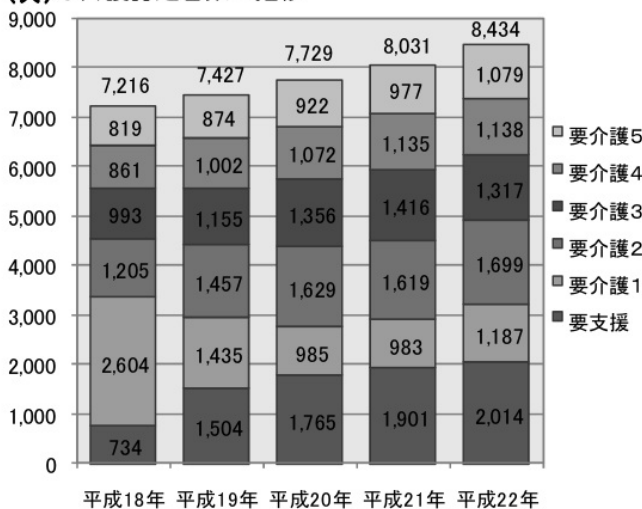
65歳以上の高齢者人口割合は16.2%と市内18区中16番目と低くなっています。しかし、高齢者人口は、約5万3千人で、市内で3番目に多くなっています。

※「人口推移」と「少子高齢化の状況」のデータは、平成22年1月1日現在。ただし、「単身世帯数」は平成17年国勢調査、「出生数」は、平成21年のデータによる。

## ■ 介護が必要な高齢者は増加しています。(22年3月31日現在)

65歳以上の高齢者の約16%が要介護認定者で約8,400人です。このうちおよそ半数の方は、何らかの支援や介護の必要な認知症があると思われます。

(人) ● 介護認定者数の推移



● 地区別要介護認定者数(平成22年)

地区	要介護認定者数	対地区総人口比(%)
日吉	1,796	2.6%
綱島	789	2.0%
大曽根	393	3.7%
樽町	195	1.5%
菊名	941	2.6%
師岡	202	2.0%
太尾	564	2.4%
篠原	1,314	3.4%
城郷	542	2.3%
新羽	331	2.6%
新吉田・新吉田 あすなろ	807	2.9%
高田	560	3.2%
総計	8,434	2.6%

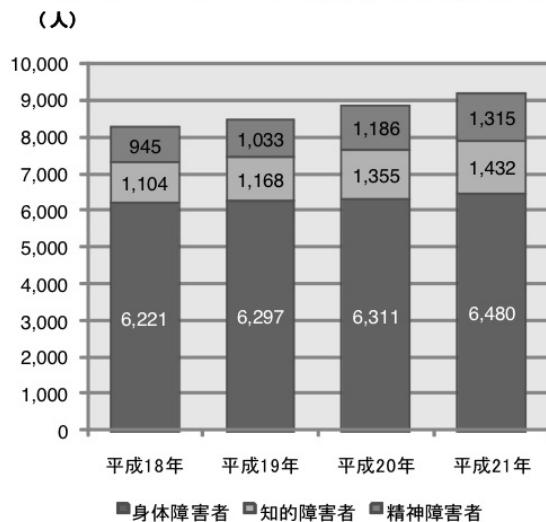
\*横浜市健康福祉局資料による

## 4 障がい児・者の状況

### ■ 障害者手帳をもっている人は約 9,500 人です。（22 年4月1日現在）

手帳所持者は、身体障がい者約6,900人、知的障がい者約1,350人、精神障がい者約1,250人となっています。

● 港北区の身体・知的・精神障害者手帳所有者数



	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
身体障害者	6,221	6,297	6,311	6,480
知的障害者	1,104	1,168	1,355	1,432
精神障害者	945	1,033	1,186	1,315
合計	8,270	8,498	8,852	9,227

\*「港北区福祉保健事業概要」による

## 5 区民意識調査（平成 20 年度実施）より

### ■ 困りごとを近所の知り合いに相談できると良いと思っている人が多くいます。

区民の方が困った時に「相談できるとよい相手」と思っているのは、多い順に「近所の知り合い・友人」50.8%、「近所以外の知り合い・友人」38.0%、「仕事での知り合い・友人」33.4%、「行政機関」27.6%となっていて、「女性」と「子育て世代」では近所の知り合い、「男性」では仕事での知り合いの割合が多くなっています。

### ■ 参加したいと思う地域活動・ボランティアは多岐にわたっています。

区民の方が実際に参加したと答えたのは、「盆踊りや健民祭、スポーツ大会など行事」17.6%、「防災活動・訓練」17.4%、「資源回収・リサイクル」15.2%ですが、参加したいと思うのは、「まちの美化活動」21.6%、「緑化・環境整備活動」19.2%、「講習会・講演会・映画会など」17.8%、「福祉活動」15.0%と多岐にわたっています。

### ■ 世代の違う方と活動する機会が増えました。

この3年間（平成18～20年）で「世代の違う方と共に活動する機会」が「たくさんあった」と答えた区民の方は19.3%、「少しあった」は27.9%で、合わせて47.2%と、平成16年度調査と比較して15ポイント高くなっています。



## ■ 健康について心がけていることは

区民の方が健康について心がけていることは「朝食は必ず食べる」74.9%、「定期的に健康診断を受ける」54.3%、「栄養を考えてバランスよく食べる」48.1%が上位にあがっています。散歩や運動の項目も含めて、いずれの項目も年齢が上がるにつれて関心が高くなる傾向があります。

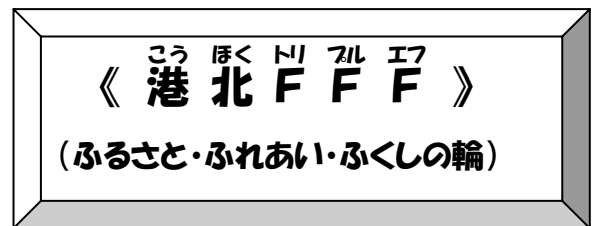
## 第2章 前計画の成果とふり返し

### 1 「港北区地域福祉保健計画」(港北FFF)(平成18～22年度)

#### ■ 港北区地域福祉保健計画の理念

港北区地域福祉保健計画(愛称「港北FFF(こうほくトリプルエフ)」)は、地域に密着した生活課題を、区民と行政との相互協力(協働)で解決していくため、住民組織や事業者・NPO法人、行政など様々な活動主体が「顔の見えるネットワーク」を形成することを目指しました。

計画は、区内13地区の連合町内会エリアを単位として、地区ごとのスローガン、行動計画をまとめた「地区計画」と、地区ごとの課題や取組をまとめ、区民、行政、事業者がその取組を支援する行動計画を「区全体計画」としました。



地区ごとの計画と区全体の計画をまとめました

#### ■ 港北FFFの地域での取組

計画の策定後、各地区で計画の推進母体が組織され、地域での行動計画が実行にうつされました。計画を推進する中で、地域の中で地域福祉保健を考える機運が醸成され、自発的な事業が数多く立ち上がりました。また、事業を円滑に進めるために地域独自にネットワークを組むなど、地域で福祉保健課題の解決に向けて取り組む体制が次第に整ってきました。

#### ■ 「港北区地域福祉保健計画推進事業補助金」

港北FFFに位置づけられた課題を解決するため、創意や工夫を活かした地域発の提案事業を募集し、区民のみなさんが主体的に取り組む事業経費の一部を補助しました。

提案があった事業は、地域での交流事業や居場所作り、地域情報の発信、ボランティアなどの担い手の育成、地域での子育て支援、高齢者の健康体操など介護予防の取組、災害時の要援護者支援など安心・安全なまちづくりへの取組など5年間で41もの事業が立ち上がりました。

活動終了後には、毎年「活動報告会」を実施。事業のPRや団体どうしの情報交換を行い、新たな活動のヒントを得たりしました。

《報告会のようす》



一年間の活動成果の報告のため、各事業の代表者が一同に集いました



映像などを交えて、活動の様子をいきいきと伝えました

## ■ 行政の支援体制

各地区では、推進母体を中心となって計画を推進しましたが、区役所福祉保健センター、区社会福祉協議会、地域ケアプラザ職員も13地区支援チームを組み、区民と行政との相互協力（協働）で計画を推進しました。

## ■ 区民フォーラムの開催

福祉保健団体や地域団体の交流の場、新たな活動へのヒントの場とするために、港北区地域福祉保健計画区民フォーラムを実施しました。フォーラムでは、地域活動のつながりと広がりをテーマにした講演や、特徴ある取組の団体代表者を招いてのシンポジウム・パネルディスカッションが行なわれ、毎年秋の恒例行事となっています。平成20年度からは社会福祉大会と合同で「港北ほくほくフェスタ」としてスケールアップ！ 区内福祉保健活動の一大イベントになっています。



シンポジウムでは、地域活動を進めていく上でヒントとなるような意見交換がされました



会場のロビーでは、区内13地区と補助事業のパネル展示を行い、広く地域活動を周知しました

## ■ 「港北区地域福祉保健計画」(港北FFF)のふり返し

このように、「港北FFF」推進の5年間でさまざまな取組が行なわれてきました。計画の推進にあたっては、地域の計画推進母体の代表者（世話人代表）や学識経験者、区内の福祉保健団体などの代表者からなる「港北区地域福祉保健計画推進連絡会（以下「連絡会」）」が組織されました。「連絡会」では、推進状況の把握と計画の円滑な実施のため、それぞれの地区での取り組み状況の報告や計画のふり返りが行なわれ、世話人代表アンケート（平成20年度実施）では、港北FFFの成果として、「地域での住民同士の交流が増え、相談できる人や場所が増えた」と、一定の評価を得ることができました。

一方、ふり返しをする中で、担い手の裾野をもっとひろげていきたい、活動が連携していくためにそれぞれの活動を有機的につなげていきたい、必要な人に必要な支援やサービスを的確に届けたいという意見がありました。

「ひっとプラン港北」では、「港北FFF」での課題「ひろがる」「つながる」「とどく」をキーワードにして、より一歩踏み込んだ福祉保健課題の解決に向けた取組を実施する事を目指します。

## 2 「(新) 港北区地域福祉活動計画」(Do it!)(平成18~22年度)

### ■ 活動計画

地域福祉活動計画は、全国社会福祉協議会地域福祉活動計画策定指針にもとづき、全国市区町村社協で策定されています。港北区社協では平成7年度に第1次計画を策定し、第3次計画である前計画「Do it!」(平成18年度~22年度)まで推進されてきました。

### ■ 港北区地域福祉活動計画のわらい

地域福祉を推進していくためには、潜在化しているさまざまな福祉課題を、そこに暮らす住民が自らの問題として捉え、その解決に積極的に参加し、主体的に活動していくことが必要です。

地域福祉活動計画は、そこで暮らす人の立場から、住民が主体的に活動していくことができるよう、多くの福祉関係の人たちと協働して長期的な展望のもとに計画的に推進していくために策定しました。



### ■ Do it! の3つの重点計画

Do it! では、①だれもが集える交流の場・居場所づくりを支援します②必要な情報が適切に届くシステムづくりをすすめます③ネットワークづくりを進めます の3つの重点計画を打ち出し、取り組んできました。

### ■ 重点計画1 「だれもが集える交流の場・居場所づくりを支援します」

高齢者や子育て中の親子・障がい者など誰もが気軽に立ち寄れる、参加できる、相談できる場をつくり、住民同士の交流が深まり、地域の力が活性化することを目指しました。みんなの居場所づくりに関する助成金制度を整備し、地域住民による居場所づくりの立ち上げ・運営支援を行ってきました。

みんなの居場所は平成22年度現在で港北区内に4か所設置され、地域住民の交流の場として活用されています。

- ① 太尾地区みんなの居場所 (平成19年立ち上げ、太尾地区)
- ② ほっとステーションおおそね (平成19年立ち上げ、大曽根地区)
- ③ ふらっと高田 (平成20年立ち上げ、高田地区)
- ④ コミュニティハウス ホットカフェ (平成22年立ち上げ、城郷地区)



① 太尾地区  
みんなの居場所



② ほっとステーション  
おおそね



③ ふらっと高田

④ コミュニティハウス  
ホットカフェ



## 重点計画2 「必要な情報が適切に届くシステムづくりをすすめます」

地域の関係が希薄化していく中で、支援を必要としている人に情報が届くシステムづくりを目指しました。また、住民が情報を受けるだけでなく住民自身の課題を発信できる場づくりも目指しました。港北区内のボランティア活動や当事者活動情報を集めたコボット（港北ボランティアネットワーク）の冊子版・Web版の作成を通じて情報を必要としている人に必要な情報が届く仕組みづくりを行いました。

また、重点計画1のみんなの居場所に相談機能を設け、住民自身の課題を住民が受け取っていく仕組みづくりをすすめました。



コボット Web版



居場所には色々な相談が寄せられます

## 重点計画3 「ネットワークづくり」

高齢・子育て・障がいなど分野毎の連携だけでなく、団体同士の横の連携を支援することを目指しました。特に、地区社協等の地域福祉推進組織と福祉施設、住民参加型福祉団体などのネットワークを作り出すことを目指しました。

主な成果としてテーマ別分科会（区社協会員を中心としたネットワーク）の充実、地区社協支援を通じた地域単位でのネットワーク機能強化、協働の推進を行いました。

福祉の活動点検シートを作成し、地区社協を支援



障害者セーフティネット分科会で地域防災訓練に参加



\* 港北区13地区社協活動事例集



横浜市港北区社会福祉協議会



やすらぎの家（ボランティアセンター）での車いす体験の様子。新吉田地区社協と協働で運営

## Do it! のふい返し

Do it! では評価委員会を立ち上げ、中間評価を行ってきました。その中で Do it! は一定の成果を出してきましたが、既存の居場所・サロンの強化や必要な情報の更なる一元化、参加者が主体となったネットワークの推進などの課題も出てきました。また、地域全体のマネジメント（ヒト・モノ・カネ・情報を有機的につなぐ、創り出す）を行う地域人材の育成が必要とされています。

「ひっとプラン港北」では、Do it! で見えた課題の対応に加え、より住民主体の取組を進めるために、地区別計画を通じて各地区の支援を行っていきます

## 第3章 「ひっとプラン港北」の特徴

### 1 基本理念

# 誰もが安心して暮らせるまち港北

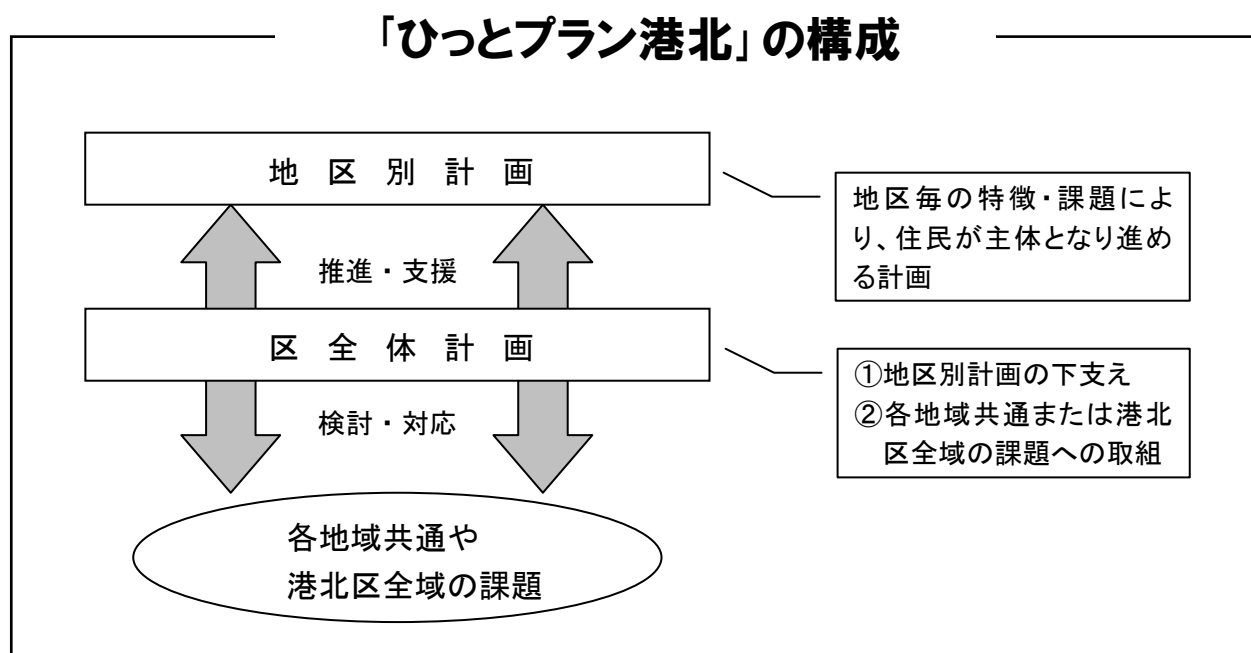
住民一人ひとりが主役です。地域の活動が幅広く結びついたネットワークの力で、身近な福祉保健課題を解決することを目指します。

### 2 「ひっとプラン港北」の構成

「ひっとプラン港北」は、日々の生活の場である地域において、住民自らが「地域発」の視点で、地域の福祉保健課題を解決していくことを目指しています。

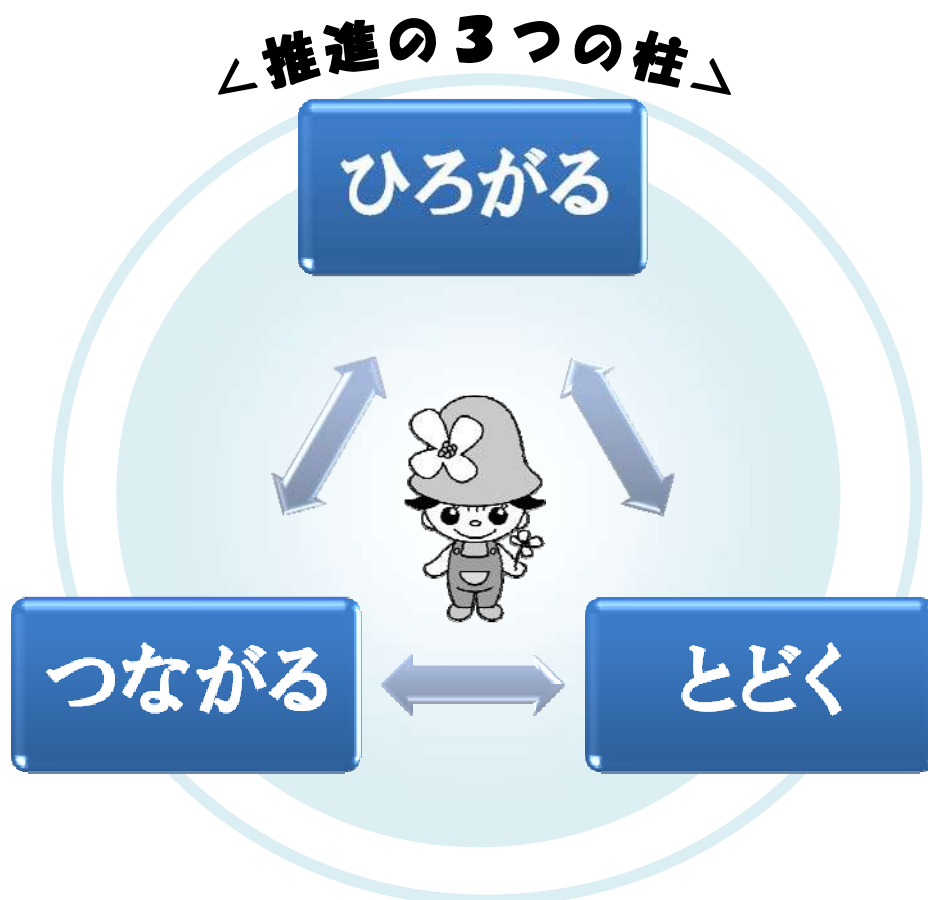
人口32万人を超える港北区では、区全体を統一的对応しようとしても、地域の実情に応じた適切な対応がどうしても困難になる場合があります。そこで、「ひっとプラン港北」では、連合町内会のエリアを単位として「地区別計画」を策定し、地域の課題解決に向けた具体策を考えました。

区全体計画は、13地区の取組がスムーズに行なわれるように計画全体を推進・支援するものです。区役所と区社協は互いに協力して、地域ケアプラザとも連携しながら地区の活動を積極的に支援し、各地域共通や港北区全域の課題にも取り組みます。



### 3 推進の柱と課題解決のキーワード

「ひっとプラン港北」では、前期計画のふり返りを踏まえて、地域の生活課題により一層きめ細かく対応するため、次の3つの柱を中心に計画の推進にあたります。



#### ○ ひろがる ○

地域の福祉保健活動を担う新たな担い手をひろげます。

また、高齢者や障がいのある方に対する理解をひろげ、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

#### 課題解決のキーワード



担い手がひろがる

理解がひろがる

## ○ つながる ○

まちを知り、住民同士が交流することで、支援を必要としている人に気付くきっかけになります。地域の活動団体がネットワークを構成し、いざという時にお互いに助け合うことが出来る関係を築きます。



課題解決のキーワード

まちを知る、人を知る

活動がつながる

## ○ とどく ○

日常のあいさつなどを通じて、互いに自然に支えあう関係を築くことで、孤立防止、虐待予防・早期発見など支援の手が届く仕組みを作ります。

また、支援が必要な人に必要な情報・サービスが的確に届く仕組みを作ります。



課題解決のキーワード



支援の手がとどく

早期発見できる

情報・サービスがとどく



## 4 計画の進め方

### (1) 成長する計画

「ひっとプラン港北」の大きな特徴は、計画の推進に、PDCAサイクル（Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善））を組み込んで、5年間を通じて計画そのものを育てていくことにあります。

つまり、一度設定した目標、取組をそのまま5年間継続するのではなく、一年ごとに達成状況を確認し、その状況に応じて計画の継続、あるいは追加・修正を決めて計画を改善していくということです。

このことにより、「ひっとプラン港北」は、地域の実情を反映しながら年を追うごとに成長していくのです。

### (2) 計画の推進・ふり返し

区全体計画の推進委員会と、各地区で立ち上げた地区別計画推進委員会とで、それぞれの計画の推進とふり返しを行っていきます。

各委員会を中心にそれぞれの計画を年度ごとにふり返し、必要に応じて追加・修正を行ない進めていきます。

### (3) 地区別計画の推進・支援

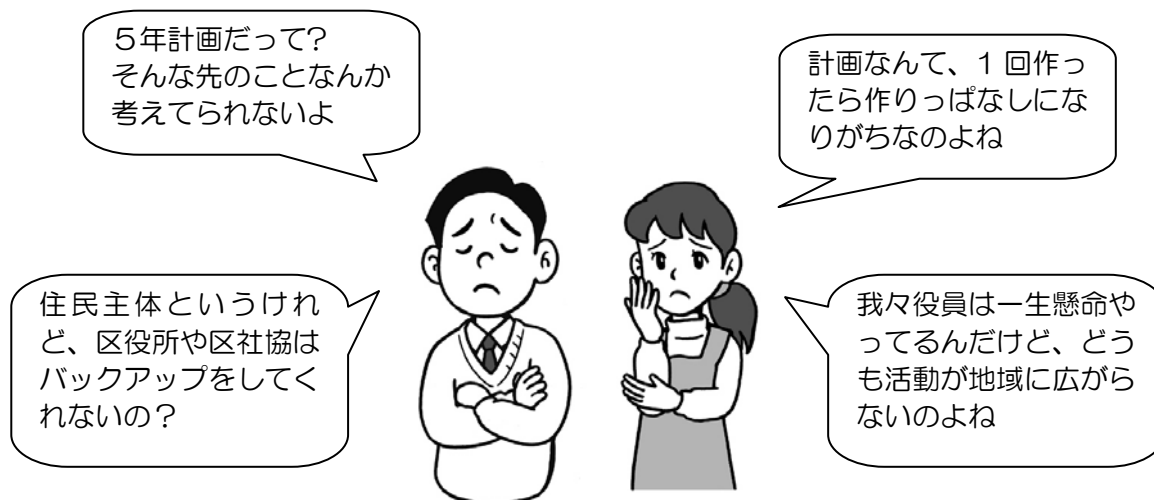
13の地区別計画を推進することで、港北区全体の福祉保健の底力が上がります。

そこで区役所、区社協、地域ケアプラザの職員が協働して地区別のサポートスタッフを構成し、住民が主体となって地区別計画を進められるよう、地域のニーズに応じた支援を行います。

また、各地区別計画の活動が地域に浸透するよう、地区別計画のPRを幅広く行います。

---

※ この計画の進め方はこんな声から生まれました！



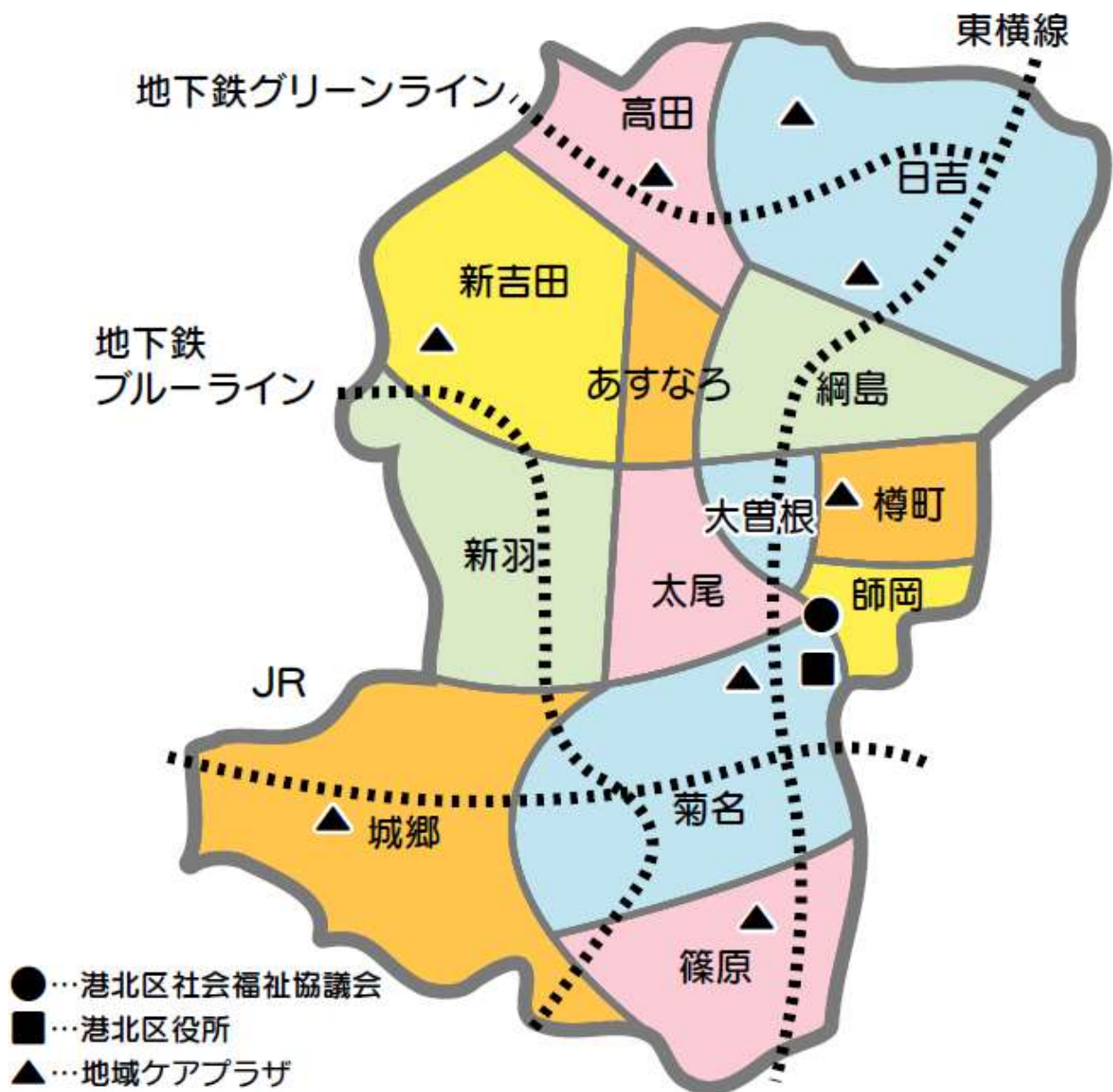
## 第4章 「ひっとプラン港北」の推進

### 1 13地区ごとの地区別計画

港北区内には、153の自治会町内会があります。また、自治会町内会間の連絡調整や地域住民の福祉増進のために広域的な事業を実施する地域住民組織として13の地区連合町内会があります。また、連合町内会エリアごとに地域住民、福祉保健活動団体、福祉関係機関など様々な団体が会員となり、福祉のまちづくりを目的にお互いに協力しあう団体が地区社会福祉協議会です。

地区別計画は連合町内会エリアを単位とした13の地区ごとに、住民が主体となり地区別計画策定委員会を立ち上げ策定を行いました。引き続き各地区では、住民主体の推進委員会を中心に計画を推進していきます。

13地区のエリアは以下のとおりです。



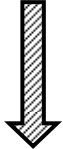
## 2 各地区別計画

地区名	名 称	ページ
日吉地区	光と活力に満ちあふれる日吉 ～一つひとつの活動が光り、大きな活力に発展するまち～	16
綱島地区	元気でふれあうまち 綱島	20
大曽根地区	ハートフル 大曽根	24
樽町地区	思いあいのまち 樽町	28
菊名地区	みんなで支えあうまちづくり	32
師岡地区	わが町師岡 ー安全・安心・住みよい町づくりー	36
太尾地区	「あいの町太尾」 ーふれあい・支えあい・助けあいー	40
篠原地区	「わがまち篠原」	44
城郷地区	たすけあうまち城郷	48
新羽地区	「 <sup>わ</sup> 和・ <sup>わ</sup> 輪・ <sup>わ</sup> 話」のまち につば 平和・福祉の「和」、みんなが手をつなぐ「輪」、 みんなが話し合う「話」	52
新吉田地区	いいな！みんなのまち新吉田	56
新吉田 あすなろ地区	もっと・ホットに「あすなろ」	60
高田地区	みんなが笑顔、助け合いのまち高田	64



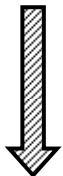
## 地区別計画はこうしてできました。

### 4者会議



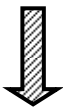
連合町内会長、地区社協会長、地区民生委員児童委員協議会会長、第1期福祉保健計画世話人の4者で会議を行い、地域のどのようなメンバーが主体となり策定していくかを決めました。

### 地区別計画準備会



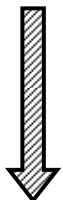
4者会議で選ばれた方々が、どんなメンバー・方法でどんな課題に取り組んでいくかを話し合いました。地域により①地域の福祉活動の洗い出し②障がい当事者を呼び、地域に期待することをヒアリング③地域単位・分野別にグループ分けして課題を検討 など様々な検討を行いました。

### ガイドライン提示



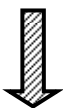
地区別計画検討部会※1で地区別計画策定のためのガイドラインを作成し、各地区別計画準備会へ提示しました。ガイドラインでは地区別計画にどのような視点を盛り込んで欲しいか、どのような方法で策定していただきたいかを示し、計画策定の方向性を示しました。

### 地区別計画策定委員会



準備会で合意したメンバー（地域で活動している団体や施設にも拡大）で、地区別計画を策定しました。（地域課題の確認、解決方法の検討、地域と馴染みの薄いマンションへのヒアリングなど）13地区の計画準備会、策定委員会を併せて、100回を超える会議を重ね、検討を行いました。

### 区民意見募集



策定委員会で策定した素案を地域住民へ公開し、計画に対しての意見を広く募集しました。

### 確定

頂いた意見を踏まえ、最終的に地区別計画を確定しました。また、平成23年度以降どのような体制で策定した計画を進めていくかについても検討しました。

※1 地区別計画検討部会…障がい、高齢、子育て、ボランティアなどの各分野の団体が集まり、地区別計画策定支援、方向性の提示を行うための部会。ガイドライン作成や地区別計画準備会・策定委員会へ出席し、各分野についての話を行うなどの活動を行いました。

# 光と活力に満ちあふれる日吉

～ 一つひとつの活動が光り、大きな活力に発展するまち ～



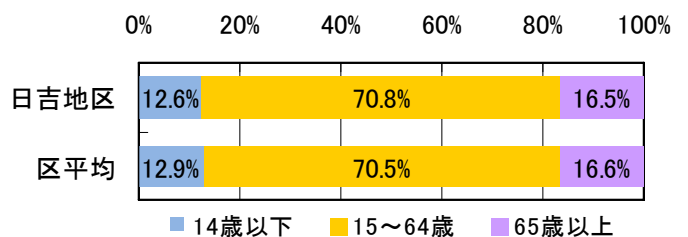
## ◆日吉地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
日吉地区	34,365	69,634	2.03
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## ◆わたしたちのまちの特色

日吉地区は港北区の最北部に位置し、東急東横線日吉駅を挟んで東西に長く、区内でも広い面積と最も多くの人口を抱えています。交通は南北を東急東横線が、東西を市営地下鉄グリーンラインが通り、横浜市中心部やニュータウン、都内へのアクセスに便利な地域でもあります。

山坂が多く比較的緑豊かな地域で、学生の街としてアパートが多く、大規模団地もあり、転出入者や核家族が多いという特徴があります。

## ◆これまでの頑張り

日吉地区は大きく分けて5つのまち（日吉町、日吉宮前、箕輪、日吉本町、下田）からなりたっています。それぞれのまちでは、自治会町内会、地区社会福祉協議会、ケア連絡会、ボランティアグループ、様々な福祉活動グループなどが、地域ケアプラザ（下田、日吉本町）や町内会館等を拠点として、様々な助け合い・支え合いの地域社会づくりの活動を行っています。高齢者向けの食事会や子育て支援のサロン、障がい児者とのふれ合いなど実に多彩な活動が行われています。

第1期地域福祉保健計画では、まちを越えた分科会活動（福祉のまち日吉ネットワーク会議）により、日吉地区としての障がい・高齢者・ボランティア・子育ての分野別の活動をつくりました。

さらに福祉実践活動発表会“光と活力”を開催し、地区社協が中心となって日吉地区内全体にわたる活動発表の場をつくりました。

## ◆これから目指していく姿

日吉地区では、福祉実践活動発表会“光と活力”をこれからも更に拡充し、活動の交流からさらに発展させ、活動のネットワークづくりを目指します。

その一方で、港北区の地区別計画の策定範囲としては最も広い面積と最も多くの人口を抱える中で、5つのまちそれぞれにおいて、お互いの顔の見える関係づくりを進めます。顔の見える関係で醸成される助け合い・支え合いの精神が、こどもからお年寄りまで、障がいのある方もない方もみんなが安心してくらせるまちづくりの基礎となります。またご近所で、子育てに悩む方や介護の必要な高齢者など福祉保健サービスが必要な方の早期発見・早期対応にも、顔の見える関係づくりは大切なことです。

活動のネットワークづくりとご近所での顔の見える関係づくりにより、「一つひとつの活動が光り、大きな活力に発展するまち 日吉」をつくっていきます。



パパと体操



高齢者サロン



障がい児音楽グループ

◆わたしたちのまちの取り組み

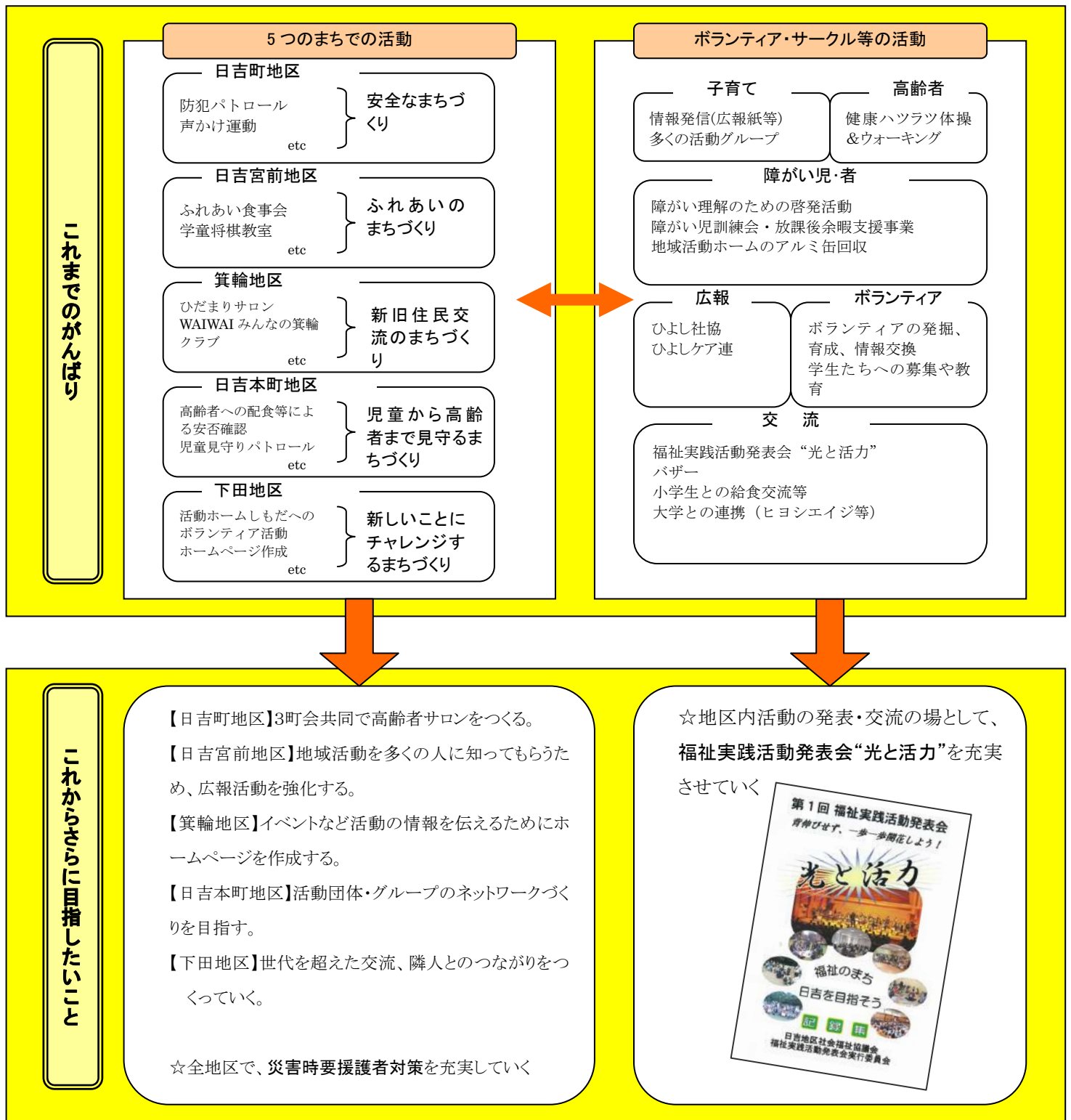
キーワード		取 り 組 み	
		目 標	具 体 策
つながる	理解	地域に暮らす障がい児者との、顔の見える関係をつくり、障がいのある方々の理解と地域参加を広げます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家や学校、職場以外で障がい児者が安心して過ごせる場、家族がホッとできる場をつくります。</li> <li>・障がいのある方とない方が理解しあえるような交流の場をもちます。</li> </ul>
	担い手	幅広い世代の地域参加を促進し、地域活動やボランティア活動に参加する方を増やします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに地域活動に参加する（地域デビュー）方を増やすために、様々な工夫をしていきます。</li> </ul>
つながる	（近所	向こう三軒両隣の近所づきあいを大切に、高齢者・障がい児者などの災害時の援護や、日頃の見守りとなる、人のつながりをつくります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ運動で、知らない人でも心がかよえるコミュニケーションをつくります。</li> <li>・訪問活動により、災害に備えた要援護者対策、高齢者などの孤立防止などの見守り活動を行います。</li> <li>・それぞれのまちのなかに、高齢者、子育て、障がい児者などの居場所となるサロン（居場所）をつくります。</li> </ul>
	知る	様々な活動を地域に住んでいる多くの方に知っていただくように努めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉実践活動発表会“光と活力”を引き続き開催していきます。</li> <li>・多くの方に情報を発信する、まちのホームページを作成します。</li> </ul>
	活動	活動に取り組んでいる人と人が交流し、ネットワークをつくります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・“光と活力”を拡充し、ネットワークづくりにつなげていくさまざまな試みを行っていきます。</li> </ul>
やむい	情報	福祉保健サービスについての情報や、地域の様々な福祉保健活動についての情報が、多くの地域住民に届くようにします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政などと連携した、講演会や啓発活動を行います。</li> </ul>
	早期発見	子育てに悩む方や介護の必要な高齢者など福祉保健サービスが必要な方の早期発見を行い、地域ケアプラザや行政など関係機関に連絡します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご近所の顔の見える関係づくりで見守り活動を行います。</li> <li>・高齢者などの孤立防止の活動を行います。</li> </ul>



グランドゴルフ大会



ひっとプラン港北 地区別計画策定委員会



### ◆ふり返りの仕方

毎年、計画推進委員会において、それぞれの地区・団体の活動の振り返りを行い、次の一年の取り組みについて計画を策定します。

### ◆最後に

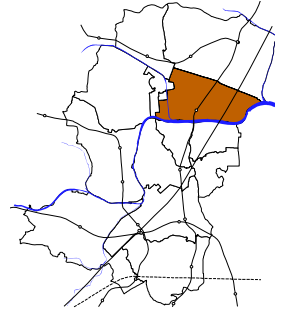
本計画の策定にあたっては、地区別計画策定委員会、5つのまち別の部会を開催し、多くの方が参加して意見・情報交換を行いました。

### 「光と活力に満ちあふれる日吉」策定委員会

委員長：酒井喜則（日吉地区社会福祉協議会会長・日吉本町西町会会長）



# 元気でふれあうまち 網島



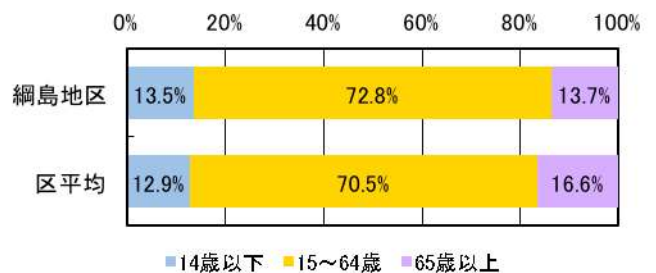
## ◆ 網島地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
網島地区	19,484	39,528	2.03
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## ◆わたしたちのまちの特色

綱島地区は鶴見川河川敷や綱島市民の森、綱島公園といった自然環境に恵まれており、綱島桃まつり、綱島桜まつり、綱島地区センター文化祭、少年すもう大会など、お祭りやイベントも盛んです。綱島街道の西側には綱島駅と商店街があり、東側ではマンション建設が現在も進んでいます。

地区内に小学校が3校あり、港北区内で唯一の特別支援学校もありますが、中学校はありません。

土地はおおむね平坦ですが、一部に歩道がない、道が狭いなど、道路事情のあまりよくないところがあります。



綱島桃まつり



綱島桜まつり

## ◆これまでの頑張り

綱島地区の第1期地域福祉保健計画では、災害時要援護者支援に取り組み、地区内の要援護者の把握と定期訪問活動を行ってきました。

さらに綱島地区では、配食サービス、サロン活動、敬老会などを通じた高齢者支援や防災訓練や地区センターでのコーヒースービスを通じた障がい者支援、子育てサロンや公園遊びを通じた子育て支援など様々なたすけあいの取り組みが行われています。詳しくは、綱島地区活動一覧をご覧ください。



綱島地区センター文化祭

## ◆これから目指していく姿

綱島地区では、盛んに行われている行事・イベントをきっかけにした、地域のさまざまな人材が協働するまちづくりや、幅広い世代がささえあい・たすけあいを実践するまちづくり、まちづくり・福祉の担い手の発掘・育成をすすめていきます。特に小学校・特別支援学校等と協力して、子どもたちの地域への理解を深め、おもいあう心を育てるとともに、地域で子どもを見守るまちづくりをすすめます。

地区センターや自治会館・町内会館といった場所で行われている活動をさらにひろげるとともに、活動団体のヨコのつながりをつくり、幅広い世代が日ごろから顔の見える関係づくりを図っていきます。

災害時要援護者支援の活動もさらに広げ、一人暮らし高齢者や障がい児・者などを見守るまちづくりをすすめます。

こうした人と人の顔の見えるつながりづくりから、地域について一緒に考え、一緒に取り組む、地域福祉のしくみづくりをすすめます。



ふれあって北綱島  
(北綱島特別支援学校)

## ◆わたしたちのまちの取り組み

キーワード		取 り 組 み	
		目 標	具 体 策
つながる	理解	子どもを含めた幅広い世代が、一緒に活動することで、地域のこと、そして地域に暮らすさまざまな人(高齢者や障がい児・者含む)のことを理解し、ささえあいを実践するまちをつくります。	地域の団体(自治会町内会・地区社協・地区民児協など)の行う行事・イベントに、幼稚園・保育園・小中学校・特別支援学校・ボランティア団体・商店街などの参加を進め、互いの交流をひろげます。 また、幼稚園・保育園・小中学校・特別支援学校・ボランティア団体・商店街などが行う行事・イベントに、地域の方々が広く参加するよう、地域の団体(自治会町内会・地区社協・地区民児協など)を通して呼びかけます。
	担い手	地域行事・イベントへの幅広い世代の方々の参加をきっかけにした、担い手の発掘・育成をすすめます。	上記のさまざまな団体が互い、行事・イベントにおける担い手を紹介しあい、「こんなことをやったださっている」「こんなことが楽しかったそうだ」といった情報をひろげます。また、行事・イベントの実行委員会などを中心に、活動を始めるにあたってのガイドなど、担い手への相談・支援もひろげます。
つながる	知る	日ごろの見守りや災害時に援護が必要な人が地域に暮らしていることを、地域の人達が知り、ささえあいのまちをつくります。	これまで取り組んできた災害時要援護者支援をさらにひろげます。訪問活動などにより、一人暮らし高齢者や障がい児・者といった方々を把握し、見守り活動につなげます。
	活動	子どもや高齢者、障がい児・者などに関わるさまざまな活動のつながりをつくり、幅広い世代同士の、日ごろから顔の見える関係づくりをすすめます。	地区センター、自治会館・町内会館などの場所で行われているボランティア活動やサークル活動などに関して、地域にはこのような活動があるということをお互いに知り、つながることができるよう、さまざまな活動の一覧表や行事・イベントの予定表、地域活動が行われているマップを作成します。 さらにさまざまな団体のつながりで可能になる活動を、実現していきます。
つなぐ	情報	幅広い世代の方々に、地域活動に関心を持っていただけるような情報発信をすすめます。	地域の団体(自治会町内会・地区社協・地区民児協など)を通して、活動一覧、行事・イベント予定表、活動のマップを、地域の方々にとどけます。活動の様子や、参加した人の声もとどけます。綱島地区をテーマに開設されているホームページなども利用します。
	早期発見	地域で福祉保健サービスが必要な人を早く見つけ、的確に対応できるまちをつくります。	災害時要援護者支援の取り組み及び上記の情報活動とともに、子育てに悩む方や介護の必要な方を見つけたときには、地域ケアプラザや関係機関に連絡します。

## ◆ 網島地区活動一覧

主な担い手	子ども	成人	高齢者	障がい児・者
区役所	赤ちゃん会 子育て支援者リーダー会 パパ教室 (以上、地区センターや地域ケアプラザなどで開催)			
網島地区連合自治会 網島地区社会福祉協議会	神明社桃花祭 網島弁財天例大祭 諏訪神社祭礼 網島スポーツフェスティバル(青体指協働) グランドゴルフ大会(青体指協働) 網島地区センター文化祭 網島桃まつり 桜祭り 鶴見川河川敷環境整備「菜の花」 網島少年すもう大会(青体指協働) わんぱくお化け大会 (地区センター) 防災訓練(3 小学校)			
網島地域福祉保健計画推進協議会			地域防災支援活動	
単位自治会	新年会 お花見 バス旅行 盆踊り町内防災訓練 防犯パトロール など			
	子ども会 ＜例:網島東親和自治会＞焼き芋大会 さつま芋の苗植え 三世代スポーツ大会 ジャガイモ掘り ラジオ体操 ＜例:北網島自治会＞ 北網子ども会 春休み子供大会		老人会 ＜例:網島東親和自治会＞新年会 体操会 地域の交流・クラブ活動	
民生委員児童委員協議会	すくすくハウス(網島東親和自治会館、網島中町自治会館) おしゃべりサロン(西:網島西5丁目にある喫茶店:主任児童委員)			
家庭防災員	災害時要援護者への取り組み(民児協と協働)			
青少年指導員・体育指導委員	ペットボトルロケット大会 社会環境実態調査			
保健活動推進員	商店など禁煙運動			
			ミニデイ花しょうぶ(樽町ケアプラザ)	
商店街	網島フェスタ ナイトフリーマーケット			
	網島地区繁華街防犯対策協議会見守りパトロール(網島小 PTA 協力)			
樽町地域ケアプラザ	パパ教室		「体操教室」(自治会館)	
網島地区センター	ゼロ歳児教室 幼児教室 親子体操教室 地区センター宿泊体験(小 4 以上) プリザーブドフラワー教室 つなしま絵本読み聞かせの会 夏休みバトミントン教室 わんぱく子供達交流お化け大会(共催事業)、おもちゃの病院	中高年体操教室、社交ダンス教室 PC 教室 など 多数	シニア&ミドル いずみ会 フィットピア P C教室	手話体験教室
市民利用施設協会	ログハウス「モッキー」			
ボランティアグループ・サークルなど	花いっぱい Tunashima 網島東ギネス認定委員会 バリケン島プロジェクト			
	網島東地区赤ちゃん会(中町自治会館) 子育てサークル「きりんさんクラブ」(上町自治会館) 網島西地区赤ちゃん会(上町自治会館・地区センター) 子育てサークル育ち愛子育てサークルレインボークラブ(親和会自治会館) 子育てサークルプチ TAMAGO ふしぎな TAMAGO(公園やケアプラザ)。ふしぎな HIYOKO 公園遊びの会わくわく(プレイパーク) 公園遊びボランティア風の子(網島東2丁目公園・西 6 丁目公園) 赤ちゃんとママのためのコンサート(北網島特別支援学校) 網島東シャークス(網島東小児童を中心に活動するソフトボールチーム) ミニ水族館(TR ネット)		網島東ボランティアグループ 網島西ボランティアグループ シニア SOHO 港北 網島つくしの会 (上町自治会館・日吉本町地域ケアプラザなど) シルバー体操 (網島地区センター)	【知的・精神】コーヒーフレンド(地区センター) ミニ樽サロン(樽町ケアプラザ)  【中途】港北あゆみ会
学校	ふれあって北網島(北網島特別支援学校)			
	学校開放 遊びの教室 地域防災拠点防災訓練 視聴覚室でボランティア活動(北網島小)			
福祉施設 その他	網島公園移動動物園 遊びの教室 子どもの交流会(以上、尚花愛児園主催) 網島学童保育 きたつな学童クラブ 毎日体育幼児園(オアフクラブ網島)	デイサービス 寿いきいきセンター網島		障害者地域活動支援センター四季菜館 中途障害者地域活動センター港北根っこ会

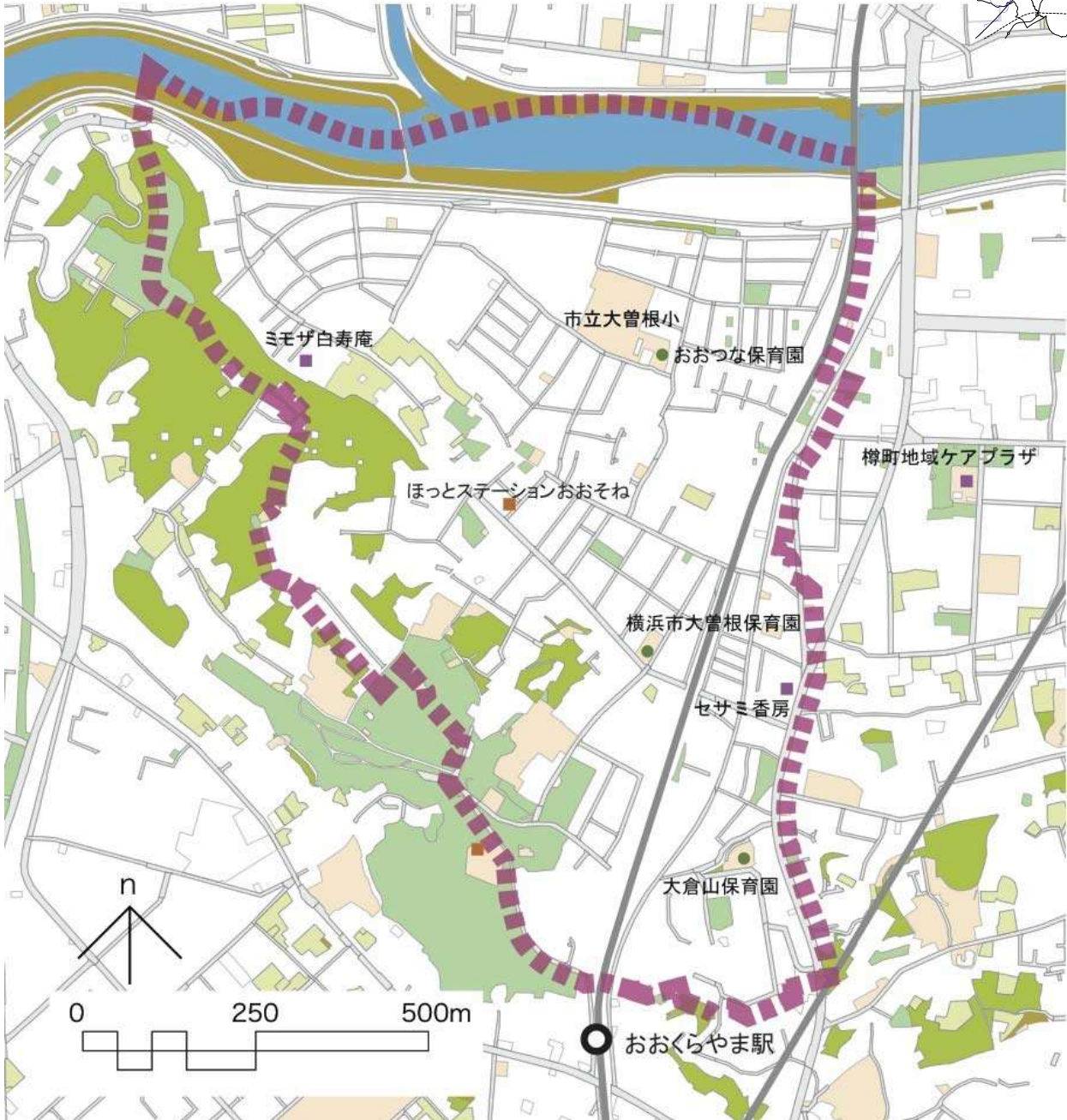
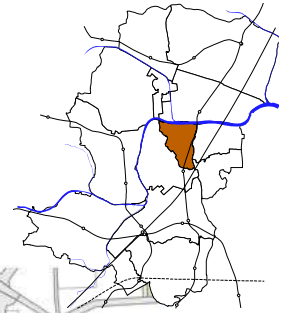
## ◆ ふり返りの仕方

計画推進委員会において、毎年の振り返りを行います。

## ◆ 最後に

この計画は、網島地区の 21 団体から選出した 31 名の委員により、計 4 回の策定委員会を開催して、検討を行い作成しました。

# ハートフル 大曽根



## 1 大曽根地区の人口

大曽根地区人口と世帯数

	世帯数	人口	平均世帯人員
大曽根地区	5,288	10,790	2.04
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## 2 わたしたちのまちの特色

大曽根地区は総人口10,790人、15歳以下の人口が少なく、高齢の方の人口が倍近くなっています。

高齢化率は20.6%で港北区の中でも高く、要介護認定者数も非常に多くなっています。

大曽根地区は、坂や階段が多く、バス路線も無く不便ですが、信号がないことも特徴のひとつです。公園が多く自然環境に恵まれています。

高齢者が多いという特徴から、地域では老人会や高齢者を中心とした活動が盛んです。

しかし、ここ最近では、マンション建設などで若い世代も少しずつ増える傾向にあります。

## 3 これまでの頑張り

### (1) 高齢者、障がい者、子どもたちの防災・防犯事業

#### ①防災袋（安心袋）の配布と防災カードの作成

イザという時の町会毎の見守り互助の精神の元となり、災害時などに備え、一人暮らしの高齢者・障がい者の安否の確認と命を守る体制づくりを推進しました。

#### ■安心袋

(上: 配布した安心袋と防災カード)

下: 防災カードを参考に各自中身を準備)



#### ②ワイワイ防犯マップ作り

##### — 2回開催

防犯マップ作りを行いました。子どもたちへの意識づけ危険に対する心構えが出来たと思います。

#### ■ワイワイ防犯マップ



#### ③防災・防犯講演会の開催

### (2) 情報発信事業

#### ①「ザ・ニュース大曽根」を発行。

平成19年9月より地域情報紙として発行

#### ②ラック、ボードの設置

#### ■オール大曽根の取組



## 4 これから目指していく姿

#### ①新しい担い手を広げる

#### ②団体間の交流により連携がとれている

#### ③町内会ごとに支援体制が整っている

## 5 わたしたちのまちの取り組み

		取 り 組 み	
キーワード		目 標	具 体 策
ひろがる	理解	・地域のニーズにあった情報が得られる	・認知症予防、防災・防犯、高齢者のうつ ・子育てに伴ううつなど講座の開催
	担い手	・元気な高齢者が地域活動に参加する ・新たな担い手の参加	・活動内容がわかる募集チラシの作成 ・趣味の仲間づくりから地域活動に移行 ・利用者が担い手になってもらう ・各得意分野の情報収集 ・「地域活動に参加しよう」の講座開催
つながる	知る	・各団体の情報を知る。情報交換をする	・各団体の年間行事をカレンダーにする ・地区ボランティア協議会を開催
		・防犯マップを通じて地域を知る	・年間計画を通して学校に取組んでもらう
		・子どもたちに障がい者の理解が深まる	・セサミ香房を、小中学生の体験・実習の場とする
	活動	・多世代の人と交流の機会をつくる ・親子が集える環境を整える	・イベントの開催 ・大曾根会館、保育園、学校、その他集会所等への交涉及び相談など
とどく	情報	・町内会広報紙の継続 ・更なる情報発信と情報の一元化	・ザ・ニュース大曾根の充実と構成員の拡大 ・ホームページの作成（新しい担い手による）
	早期発見	・見守りや支援が必要な人の把握が町内会ごとにできている ・高齢者が孤立しない	・防災カードの推進及び「災害時要援護者支援事業」の推進 ・町会ごとのネットワーク作りの推進（班長の参加、民生委員への情報提供） ・高齢者の居場所への参加を促す

## 6 ふり返りの仕方

- ・全体会の開催 年2回（6月、2月）
- ・計画の推進と振り返りのために部会をつくる（①交流 ②広報 ③支援づくり）。事務局及び部会ごとに、推進状況を確認する

### □策定委員会構成メンバー（選出母体）

大曾根自治連合会、大曾根地区社会福祉協議会、ふれあいオール大曾根、大曾根地区保健活動推進委員会、ボランティアグループ もえぎ、配食サービス よつ葉、大曾根地区民生委員児童委員協議会、体育指導員会、青少年指導委員会、はまっこスクール 運営委員、大曾根小学校 PTA、セサミ香房

第2回福祉保健計画準備会において  
地域の中で活動されている団体・グループを抽出しました

\* 23年4月以降「もえぎ」の活動は、ほっとステーションに発展的に統合されました。

	町内会	地区社協	体育指導員	青少年指導委員	ボランティア	自主サークル
	オール大曽根	民生委員・児童委員	学校関係			
全体対象	盆踊り大会 八幡神社祭礼 健民祭 自主防災訓練 防犯パトロール ワン個々パトロール ザ・ニュース大曽根 (情報紙) 防災カード お隣さんお元気 ですか(町内会)	大曽根福祉まつり 地区社協活動一覧 全戸配布 ささえあい ネットワークの会 (見守り支援)	グランドゴルフ ペタンク・ボーリング 早朝ソフトボール ラジオ体操	ときめきコンサート ほっとステーション (居場所)	花を楽しむ会 男の料理教室 民謡同好会 パッチワーク同好会 棋楽会 手芸 コーラス 太極拳 歩こう会	
高齢者対象	防災袋配布				給食会 (やすらぎ会) 配食会 (よつば会) ミニディサービス (もえぎ) くつろぎ処 (もえぎ)	老人クラブ (4団体) 折り紙教室 クリーンクラブ 高麗会 お散歩会
障がい者対象		セサミ香房	大曽根ライガース (少年野球) 大曽根スポーツ クラブ(サッカー) 大曽根レインボー (ミニバスケット)	大曽根ライガース (少年野球) 大曽根スポーツ クラブ(サッカー) 大曽根レインボー (ミニバスケット)	介護者家族の集い 若い中途障害者 (もえぎ) リハビリ教室 (もえぎ)	
子ども対象	サマーフェスティ バル(上本町会) わいわい 防犯マップ	育児サークル リーダー会 大曽根ちびサロン (未就学児の 子育て支援)	ペットボトル大会 はまっ子 学童保育 アンサンブルネット 遊友フェスタ	子ども会 (町内会とは別組織)	大曽根自然を 楽しむ会 読み聞かせ	
* 港北区 *		* 樽町ケアプラザ *				
離乳食教室 赤ちゃん会(大曽根会館) 双子の赤ちゃん会 子育て支援者の相談会		ミニディ花しょうぶ (高齢者居場所) 多世代交流 介護予防教室OB会		ミニ樽サロン (精神福祉サロン) パパといっしょに遊びましょ 障がい児余暇支援		ぴよぴよクラブ (読み聞かせサークル) 園芸ボランティア 体力向上プログラム

■ 第2回準備会(2010.4.5)

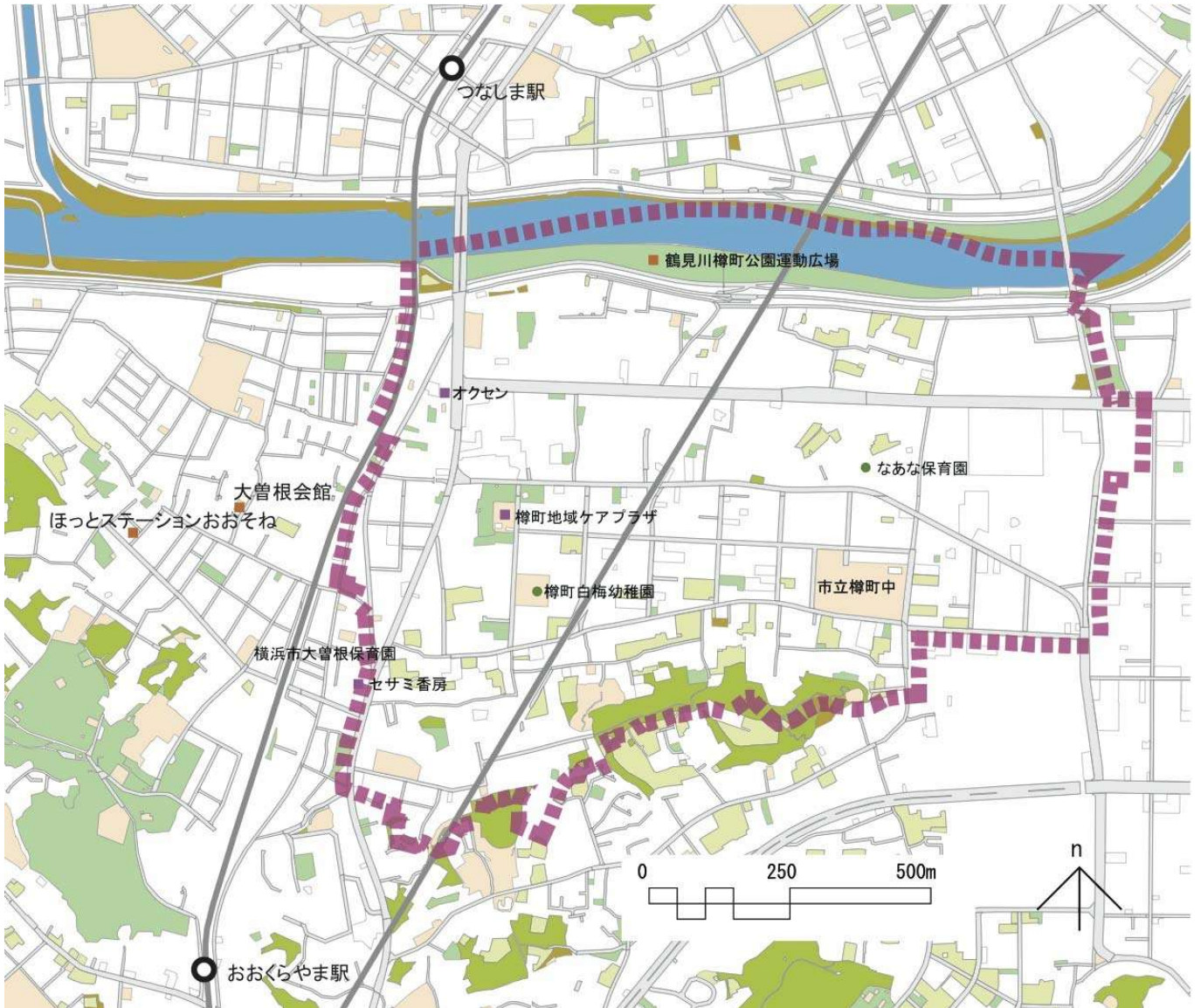
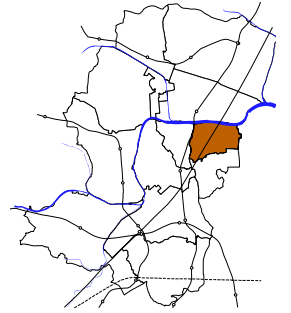


■ 第4回策定委員会(2010.11.8)





# 思いあいのまち 樽町



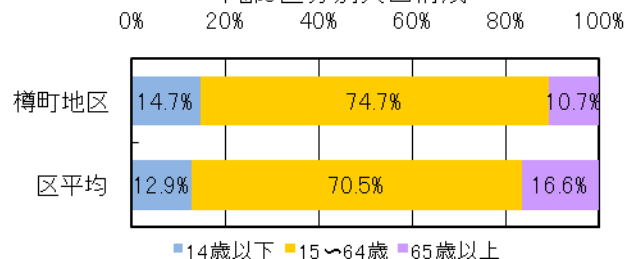
## ◆樽町地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
樽町地区	6,347	13,244	2.09
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成22年9月末現在

年齢3区分別人口構成



## ◆わたしたちのまちの特色

樽町地区は鶴見川沿いの平坦な地区で、緑に恵まれています。網島駅・大倉山駅まで徒歩圏で、大型店舗や病院などもあり、生活に便利なまちです。現在もマンション建設が進んでおり、子育て中の若い世代が増えています。

樽町地域ケアプラザと樽町中学校が、コミュニティや防災などの中核となっていますが、小学校はありません。

## ◆これまでの頑張り

樽町地区の第1期地域福祉保健計画では、顔の見える関係作りを目指したイベントとして、「樽町ふれあいのつどい」を開催してきました。この中では地域の方に感謝の気持ちを直接伝える「ありがとうステージ」なども行ってきました。他にも、「樽町歩こう会」や福祉講座、福祉見学会なども開催してきました。

樽町地域ケアプラザでは「ちびたる」「赤ちゃん会」「みんなのたまり場」といった子育て活動や、精神保健サロン「ミニ樽サロン」、高齢者給食会「わかば会」、高齢者ミニデイ「花しょうぶサロン」、落語と歌の「志隆の会」、介護予防体操、介護者セミナー・交流会などが毎月行われています。高齢者への安否確認をかねた配食も行っています。

さらに自治会町内会などによる、子どもから高齢者まで楽しく快適に暮らすまちづくりに取り組んでおります。樽町連合町内会が中心になって、ペットボトルロケットやペタング、グランドゴルフなどの大会や、盆踊り、杉山神社祭礼、防災訓練、一斉清掃などが開催されておりますし、各自治会町内会も独自に、もちつきやカラオケ、ボーリング大会などのイベントを行っています。樽町地区では、青少年指導員と体育指導委員が協力して、スポーツやレクリエーションの指導・支援にあたっています。

樽町中学校では自治会町内会と合同で、防災訓練を行っています。

## ◆これから目指していく姿

樽町では大型マンションの建設が現在も進んでおり、新しい、若い世代の方々の地域活動への理解と参加・協力を広げる取り組みを行います。「樽町ふれあいのつどい」をはじめとする様々な活動に関心をもっていただけるような情報をとどけると同時に、参加と協力を広く呼びかけていきます。

そして、自治会町内会や各団体の、地域全体の中でのつながりが見えていくような協働活動と情報発信や、さまざまな人が日ごろから気軽に顔の見える関係をつくる機会と場による、“思いあい”の輪づくりをすすめます。そして日ごろの“思いあい”の輪を、子どもや高齢者、障がい児・者の見守りへと広げていきます。こうした取り組みを通して、住む人に「ふるさと」として愛着の持たれる樽町を育てていきます。

樽町ふれあいのつどい



樽町歩こう会



ちびたる



◆わたしたちのまちの取り組み

キーワード		取 り 組 み	
		目 標	具 体 策
つながる	理解	<p>“思いあい”のスローガンのもと、さまざまな地域活動への理解と関心を広げ、参加と協力を呼びかけていきます。</p> <p>自治会町内会・地区社協・ケアプラザ・小中学校・ボランティア・サークル団体の相互の理解を深め、地域福祉やまちづくり、子育てなどについて一緒に考える機会をつくります。</p>	<p>これまで行ってきた「樽町ふれあいのつどい」や「樽町歩こう会」といった、地域交流や福祉イベントの内容をさらに工夫し、協働する団体を広げていきます。</p> <p>小中学校の PTA・校外委員と、自治会町内会・地区社協・地区民児協などの話し合いの場をふやしていきます。</p> <p>ボランティアネットワーク樽が中心となり、地域住民に対して、障がい児・者への理解を深めるための、話し合いの機会をつくります。</p>
	担い手	<p>行事・イベントなどをきっかけに、様々な地域活動の担い手発掘・育成をすすめ、地域参加のすそ野を広げていき、みなで思いあう樽町をつくっていきます。</p>	<p>地域活動に参加・協力された人の「楽しかった」といった声を紹介し、担い手参加を呼びかけるチラシなどを配ります。「樽町イベントカレンダー」や「樽町マップ」などにも、担い手参加の呼びかけを記入します。</p>
つながる	知る	<p>地域福祉やまちづくりに携わる人々が、お互いの活動を知り、重なっているところや、一緒にやるとさらなる発展の期待できるところは一緒にやるといった、調整をすすめます。</p>	<p>地域のさまざまな活動を一覧できる、「樽町イベントカレンダー」・「樽町マップ」づくりをはじめます。カレンダーやマップを一緒につくる中で、樽町地区で行われている様々な活動をどう結び付けていくかについての話し合いを行います。</p>
	居場所	<p>幅広い世代が、日ごろから気軽に顔の見える関係をつくることのできる、居場所をつくっていきます。</p>	<p>マンションの集会所などを利用して、サロンを開催します。また、集会所などで、ケアプラザで行われている子育て・介護予防などの活動をふやしていきます。</p>
	活動	<p>子どもと地域の大人、特に高齢者との顔の見える関係づくりをすすめます。顔の見えるつながりが、子どもの教育や高齢者のいきがい、防犯・防災にもつながります。</p>	<p>公園での体操や公園清掃・植栽(植育)など、高齢者と子どもが一緒に活動する機会と場をつくります。さらに、連合町内会の行事・イベントなどへの、幅広い年齢層の参加をすすめます。</p>
つなぐ	情報	<p>これまでの広報紙(地区社協『ふくしだより』など)・回覧物などと併せて、地域情報のとどきにくい方々に情報を提供します。</p> <p>インターネットを用いる情報提供の可能性を考えていきます。</p>	<p>マンションの管理組合や自治会を通した、チラシ・掲示板・ポスターなどによる情報提供をすすめます。特に写真や絵、大きい字を使い、高齢者などにも関心をもってもらえるものとしします。</p> <p>行事・イベントなどの参加者に、どのようにして情報をえたかのアンケートを行い、情報活動のふりかえりをすすめていきます。</p>
	早期発見	<p>顔の見える関係づくりの中で、見守りの必要な人を早期に発見します。災害時の要援護者対策にもつなげていきます。</p>	<p>「樽町イベントカレンダー」や「樽町マップ」などの中に、なにか困ったことがあったときや、困っている人を見つけたときの相談窓口・連絡先を記入しておき、早期発見につながります。</p>

## ◆樽町地区活動一覧

主 催	活 動			
	子ども・子育て	高齢者・介護・介護予防	障がい児・者	
樽町地区地域福祉保健 計画推進部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>樽町歩こう会</li> <li>樽町ふれあいのつどい</li> </ul>			
樽町連合町内会	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉清掃(年2回)</li> <li>春季ベタンク大会</li> <li>秋季グランドゴルフ大会</li> <li>樽町懇談会</li> <li>杉山神社祭礼</li> <li>ふるさと港北ふれあい祭り</li> <li>ふれあい広場</li> <li>防災訓練(樽中合同)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>師岡小・文化スポーツクラブ運営委員会</li> <li>師岡小・MOM</li> <li>師岡小・はまっこコンサート</li> <li>子ども会盆踊り大会</li> <li>ペットボトルロケット講習会</li> </ul>		
単 位 自 治 会	大倉山自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅周辺除草(年2回)</li> <li>自治会フェスティバル</li> <li>防災訓練</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会(新入生歓迎会・ボーリング大会・お楽しみ会・6年生を送る会)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬老の日お祝い</li> <li>親友会(老人会)レクリエーション(月2回)</li> </ul>
	第一親和会	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一新年会</li> <li>第一婦人部ゴキブリ団子作り</li> <li>第一グランドゴルフ大会</li> <li>美化活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会(夏休み工作教室・ハロウィン・ビンゴ大会・ラジオ体操)</li> </ul>	
	第二親和会	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画会</li> <li>グランドゴルフ</li> </ul>		
	第三親和会	<ul style="list-style-type: none"> <li>新年会</li> <li>餅つき大会</li> <li>防災訓練</li> <li>有志バス旅行</li> </ul>		
	琵琶畑自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期清掃(毎月第4日曜日)</li> <li>バス旅行</li> </ul>		
	ガーデンコート自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガーデンコート祭り(隔年)</li> <li>ベタンク・グランドゴルフ練習会</li> <li>みんなで木や花を植えよう</li> <li>防災訓練</li> <li>クリスマスイルミネーション</li> <li>ボーリング大会</li> <li>ケーキ作り講習会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会(餅つき大会)</li> <li>ペットボトルロケット講習会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敬老の日お祝い</li> <li>ひだまり会</li> <li>梅を見る会</li> </ul>
	サンハイツ自治会	<ul style="list-style-type: none"> <li>エコキャブ運動</li> <li>打ち水会</li> <li>防災用品点検</li> </ul>		
樽町町内会	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内一斉清掃(年2回)</li> <li>樽町地区防災訓練</li> <li>杉山神社祭礼</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>敬老会</li> <li>鶴寿会(老人会)カラオケ等(月1回)</li> </ul>	
青少年指導員 ・体育指導委員 ・子ども会	<ul style="list-style-type: none"> <li>樽町体育祭(隔年)</li> <li>連町会グランドゴルフ大会</li> <li>連町会ベタンク大会</li> <li>港北区ベタンク大会・駅伝大会・区民マラソン</li> <li>さわやかスポーツ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>盆踊り大会</li> <li>春の交流会</li> <li>ペットボトルロケット講習会</li> <li>ラジオ体操</li> <li>子ども会餅つき大会</li> <li>6年生を送る会</li> </ul>		
保健活動推進員			<ul style="list-style-type: none"> <li>花しょうぶサロン(月1回)</li> </ul>	
樽地区社協(樽町地域 ケアプラザにて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉講座・福祉見学会(年2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ちびたる」(月2回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者給食会「わかば会」(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健サロン「ミニ樽サロン」(月1回)</li> <li>ボランティアネットワーク樽</li> </ul>
樽町地域ケアプラザ	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生ボランティア受け入れ(春休み)夏休み(冬休み)</li> <li>「お庭をもっと素敵に」(春夏・秋冬にそれぞれ5回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミニミニツイインズ(月1回:ふたごのサロン)</li> <li>「みんなのたまり場」(月1回)</li> <li>「赤ちゃん会」(区と協働 月1回)</li> <li>「パパと一緒に遊びましょ」(年4回:新米パパの育児教室)</li> <li>「子育て支援者相談会」(毎週火曜日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>囲碁将棋サロン(月1回)</li> <li>介護予防「さわやか体操」(月2回)・「はなみずき体操」(月2回)・「すみれ体操」(月2回)</li> <li>「体力向上プログラム」(年4回:自治会館などにて)</li> <li>「介護者セミナー・交流会」(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学齢障害児余暇支援「スペースぐーびーたるまち」(しんよこはま地域活動ホーム共催)</li> <li>学齢障害児余暇支援・ボランティア交流会「こぼれなつとも」(夏休み期間)</li> </ul>
自主グループ(樽町地域 ケアプラザにて)	<ul style="list-style-type: none"> <li>落語・歌「志隆の会」(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育てサークルなど</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者ミニデイサロン「ふれあい広場はなしょうぶ」(月1回)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中途障がい者「PCてまりの会」(月2回)</li> </ul>

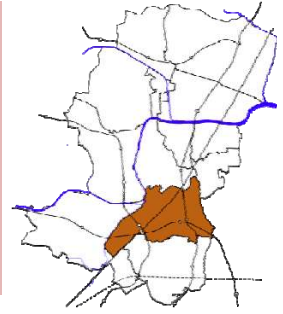
## ◆ふり返りの仕方

計画推進委員会を年に数回開催します。

## ◆最後に

この計画は、12名の策定委員による、6回の委員会を開催して、作成しました。また計画検討にあたり、「ちびたる」参加者や、民生委員・児童委員、マンション内に新しくつくられた自治会へのヒアリング調査、及びマンション住民へのアンケート調査を実施しました。

# みんなであう まちづくり

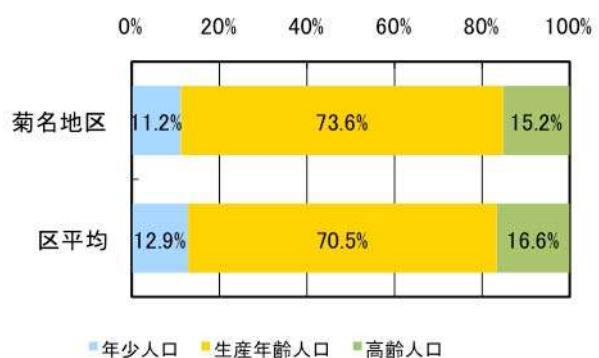


菊名地区人口と世帯数(概数)

	世帯数	人口	平均世帯人員
菊名地区	20,000	37,000	1.88
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## ◆わたしたちのまちの特色

- ・菊名地区は、菊名3丁目の一部、菊名4～7丁目、篠原北1～2丁目、大豆戸町、新横浜1～3丁目、富士塚2丁目の一部、篠原町の一部、錦が丘をその範囲としています。
- ・人口は約37,000人で、高齢人口が年少人口よりやや多くなっています。
- ・菊名地区には、東横線、横浜市営地下鉄線、横浜線、東海道新幹線の駅があり、交通の利便性が比較的好く、公的施設、医療機関、商業施設も多くあります。
- ・新横浜、大豆戸町などは比較的平坦な地形ですが、篠原北、錦が丘や菊名の一部などは山坂が多い地形となっています。
- ・区内でも早くから開発された地域で、高齢化が進んでいる一方で、新築マンションが建ち、転入者の多い地域でもあります。
- ・特徴の異なる地域がまとまって1つの地区を形成しており、抱えている課題が地域ごとに異なる面も見られます。

## ◆これまでの頑張り

- ・菊名地区の第1期地域福祉保健計画では、支えあい連絡協議会により、菊名駅バリアフリー化の実現、高齢者や小学生の見守り活動、障害者の会やその支援団体などによるバザー「らくらく市」への参加、「生活安全安心メモ」の作成などを行ってきました。また、高齢者支援のためのアンケート調査、交通弱者のための階段・坂道など歩行困難道路の調査なども行いました。
- ・菊名地区社会福祉協議会では、民児協による一人暮らしの高齢者を対象とした昼食会や子育てサロン等の活動、地域ケアプラザを中心とした子育てフリースペース、高齢者の介護予防サロン、障害者等との交流事業やボランティア講座などの様々な取り組みを行ってきました。
- ・地域では、相乗りタクシー、お出かけバス、打ち水大作戦、七夕、ハロウィン等、地域や参加対象も多様な自主的な活動が活発に行われてきました。

## ◆これから目指していく姿

- ・菊名地区では上記のとおり第1期地域福祉保健計画で様々な成果をあげたほか、各種の団体が子育て支援や高齢者支援の活動などを多様に展開しています。
- ・今後は活動の担い手を更に広げ、活動団体相互の連携をより一層深めていくことが大きな課題です。
- ・そこで第2期では、支援される当事者の側も含む地域の様々な構成員が、お互いに知り合うこと、情報を共有することで、連携の基盤をかため、「みんなで支えあうまちづくり」をめざしていきます。

## ◆わたしたちのまちの取り組み

キーワード		取 り 組 み	
		目 標	具 体 策
まちが わかる	理解	障害者や発達障害などの障害児とその家族について地域での見守りをすすめていくため、「障害を知ろう」「障害への理解を持とう」という人を増やします。	町内会・地区社協・民児協などの地域の担い手が、障害に詳しい職員や専門家、障害当事者やその家族などに話を聞く機会を設け、徐々に理解を深めます。 また、らくらく市への参加を続けるとともに、地域の行事・イベントに障害児者を招待するなど交流の機会を設けます。
	担い手	地域の行事や活動などに幅広い年代が参加する機会をもうけ、地域活動の担い手を発掘します。	地域のイベントに小中学校や子供達が参加する機会をつくります。 地域の学校や子供会、商店会などと一緒にできることを検討し、実施します(清掃活動、高齢者との文通など)。 具体的な活動内容・活動の場を設定し、新たなボランティア募集と受け入れを行います。
	環境	安全・安心なまちを実現するための環境づくりをすすめます。	防犯パトロールの強化を図ります。 高齢者が安心してでかけられるよう、坂道の多い地域を中心に休憩できるベンチなどを設置する計画をすすめます。
まちが つながる	知る	近所同士の顔見知りになるような日常の関係づくりをすすめます。	防犯パトロールや町内広報回覧などの機会をとらえて声かけをします。 住民同士があいさつをかわす運動をすすめます。
	活動	地域の様々な団体等の活動内容についてお互いに情報共有していくことで、人材の交流をつくりだし、活動を活性化します。	民児協・町内会・地域ケアプラザ・地区社協・地区センター等での活動や、地域作業所・老人福祉施設・NPO・自主的な活動団体等の活動の内容・イベントスケジュールの情報を共有するためのしくみを検討します。(活動一覧・スケジュール表・マップ等の作成、情報交換会等)
まちが 安心	情報	地域の高齢者や障害者に、地域の取り組みや地域の資源などの情報を届け、地域に出るきっかけをつくります。	地域の行事・イベントに高齢者や障害児者を招待するなど交流の機会を設けます。
	早期発見	一人暮らしの高齢者や災害時要援護者の見守りができる地域をつくります。  行政と協力して、高齢者の安否確認に取り組みます。	地域で高齢者が困ったときに気軽に相談できる家をステッカー等で表示する「高齢者 110番」のしくみをつくります。 災害時要援護者支援の取り組みを一部の町内会でモデル的に進めます。 交流サロン設置や送迎支援の活動と連携し、一人暮らし高齢者等の見守りネットワーク事業に取り組みます。

## ◆菊名地区の活動

チャリティバザーらくらく市



1歳・2歳・3歳児の会



公園遊び「ぴよんぴよん」



大豆戸っ子給食会



菊名地区敬老会



## ◆策定委員構成

菊名地区連合町内会（表谷、大豆戸、菊名北町、錦が丘、新横浜、泉ヶ丘、ふじ、大倉山ハイム、大倉山喜久和）／菊名地区社会福祉協議会／篠原北地区民生委員児童委員協議会／大豆戸地区民生委員児童委員協議会／菊名地区民生委員児童委員協議会／菊名地区支えあい連絡協議会

## ◆ふり返りの仕方

素案として計画した取り組みが、具体的に進めることができるのかどうか、あるいは具体的に進めようとした取り組みが、どのように進展しているのかを確認する「ふり返し」を随時行い、達成状況に応じて、修正・見直しを行っていきます。

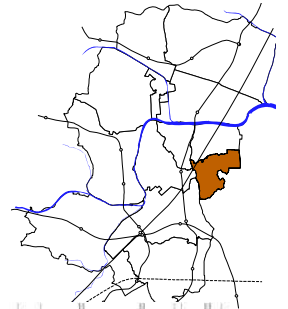
## ◆最後に

準備会で話し合いを行っていく過程で、菊名地区はエリアが広範囲であり、地域によって住環境や生活環境などが異なり、課題にも違いがあるため、菊名地区、大豆戸地区、篠原北地区に大別して、それぞれの町内会、民児協で話し合いを行っていくことにしました。幾度かの各地別の話し合いの結果を持ち寄り、3地区合同による計画策定委員会を設け、計画の素案を策定しました。



# わが町師岡

— 安全・安心・住みよい町づくり —

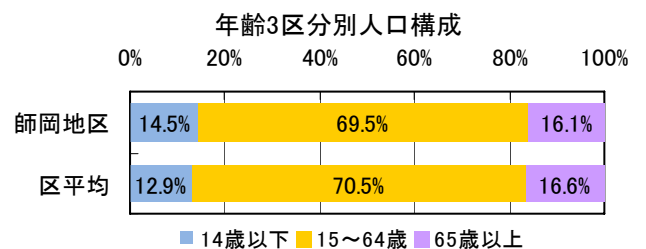


## 1 師岡地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
師岡地区	4,578	10,149	2.22
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在



## 2 わたしたちのまちの特色

- ・谷戸ごとにまとまった4つの地区から成る山坂の多いまちです。そのため、1か所に集まるためには峠越えが必要です。
- ・年少人口率14.5%、高齢化率16.1%と、人口構成は比較的バランスがとれていますが、子どもの数は横ばい、高齢者は確実に増加しています。
- ・近年、丘陵部でのマンション開発が進み、新住民が増えています。
- ・環状2号線が地区の中心を通りますが、それ以外の道は全体的に狭く、ぜい弱です。
- ・地域組織は連合町内会と地区社会福祉協議会を中心に一体感が強く、「師岡地区ネットワーク」を結成しています。



図 「師岡地区ネットワーク」の模式図とシンボルマーク

## 3 これまでの頑張り

- ・地区社会福祉協議会では、10以上ある事業部門がそれぞれ活発に活動しています。
- ・特に、平成20・21年度に「災害時要援護者支援事業」に取り組みました。
- ・その事業を通じて「わが町師岡マップ」を作成、全戸配布を行いました。
- ・マップには掲示板の位置が明示されていますが、そこに消火器の設置を進めるなど、実際のまちの安全性向上も図っています。
- ・また災害時要援護者に対しては、民生委員が自宅訪問などを通じて健康状態などを確認、特に平成21年度の連合町内会主催の防災訓練及び敬老の日を重点作業日として調査を行いました。
- ・その結果は、単位町内会ごとに「災害時要支援者カード」に記入するなどの整理を行いました。

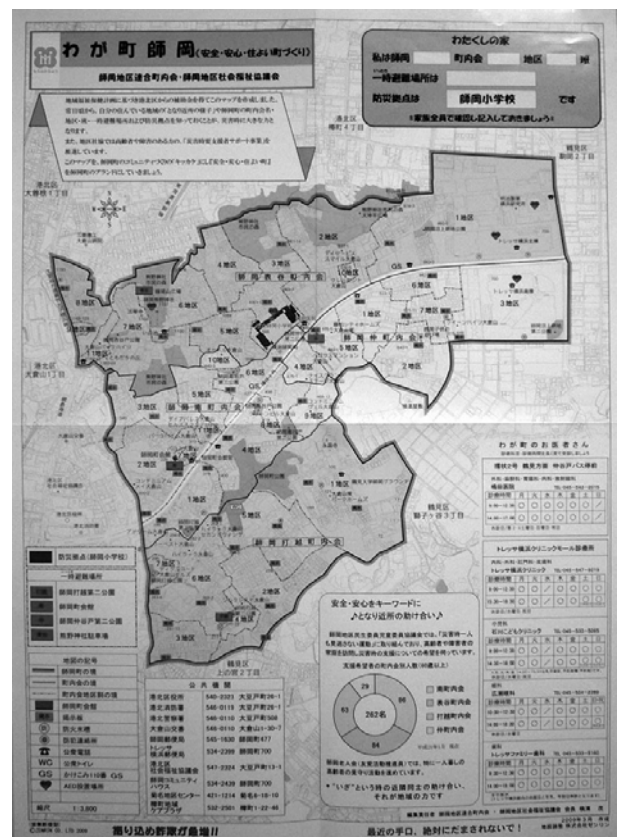


図 「わが町師岡マップ」

#### 4 これから目指していく姿

第1期では、前述したように、多くの成果を上げたと自負する一方、未だ道半ばであると強く感じています。そこで、第2期においては特に次の点を、師岡地区における地域福祉推進のための基本的な考え方といたします。

- 第1期の成果を礎として、その成果を生かしながら継続的に発展させていきます。
- 地域社会のコミュニケーション不足を解消すべく、人と活動のネットワークづくりを、全員で推進していくテーマとしていきます。

#### 5 わたしたちのまちの取組

以下は、今年度で開催された検討の場において出された意見を整理したものです。今後とも、取組の進捗に応じて、さらなる展開策や新しい方策を充実させていきます。

キーワード	わたしたちのまちの取組		取組	
			目 標	具 体 策
ひろがる	理解	地域住民が地域（事業部）の活動を理解し、この活動に参加する人を増やすとともに、福祉の街づくりを進めます。	○連町・社協に属する事業部活動を地域住民が理解するよう努めます。 ○高齢化社会への理解を広げます。	・地区社協総会資料に掲載し住民への周知を図っています。（総会資料は全戸配布しており4年間継続している。） ・認知症に関する講座や介護予防教室などを増やします。
	担い手		○地域活動に参加する住民を増やします。	・縁日、盆踊り、運動会、防災訓練等の場をとらえ、担い手の発掘を継続します。
	環境		○安全・安心のまち環境を充実します。  ○福祉の街づくりを進めます。	・掲示板側面への消火器設置をさらに進めます。 ・防犯パトロールの強化を図ります。 ・生活道路、通学路など歩行者の安全対策として、道路の拡幅を進め安全安心の町づくり推進を図ります。
つながる	知る	師岡地区連合町内会・師岡地区地区社会福祉協議会から、活動内容を周知し、集う場所や機会を確保して、地域住民の連携を深めます。	○催しや活動内容が効果的に伝わる。  ○「社協」とは何かを周知します。	・掲示板を活用する他、回覧板、広報紙を利用し周知していきます。 ・ホームページの立ち上げを検討します。 ・区社協で作成のリーフレットを使用し、地域住民に知らせていきます。
	活動		○地域住民の集まる場所を確保し、活動の充実を図ります。	・小学校、コミュニティハウスを地域が使いやすくなる仕組みを検討します。 ・会館の利用申し込み方法をホームページから行うなど検討し、会館の利用率の向上を図ります。
とどく	情報	災害時要援護者支援の活動を引続き行い、きめの細かい地域活動をしていきます。	○災害時要援護者支援の活動を継続的に行っていきます。	・区からの要援護者情報を得て、随時、調査カードの更新を行います。 ・80歳以上の高齢者については、敬老会の時期に合わせて調査を行い、調査カードを更新します。 ・災害時の地域における取組については行政とともに検討していきます。
	発見期			・きめの細かい訪問活動などを継続していきます。

## 6 振り返りの仕方

これまで継続して行われてきた師岡地区の地域福祉活動を師岡地区社会福祉協議会が中心となり、事業部ごとの活動の振り返りをしていきます。

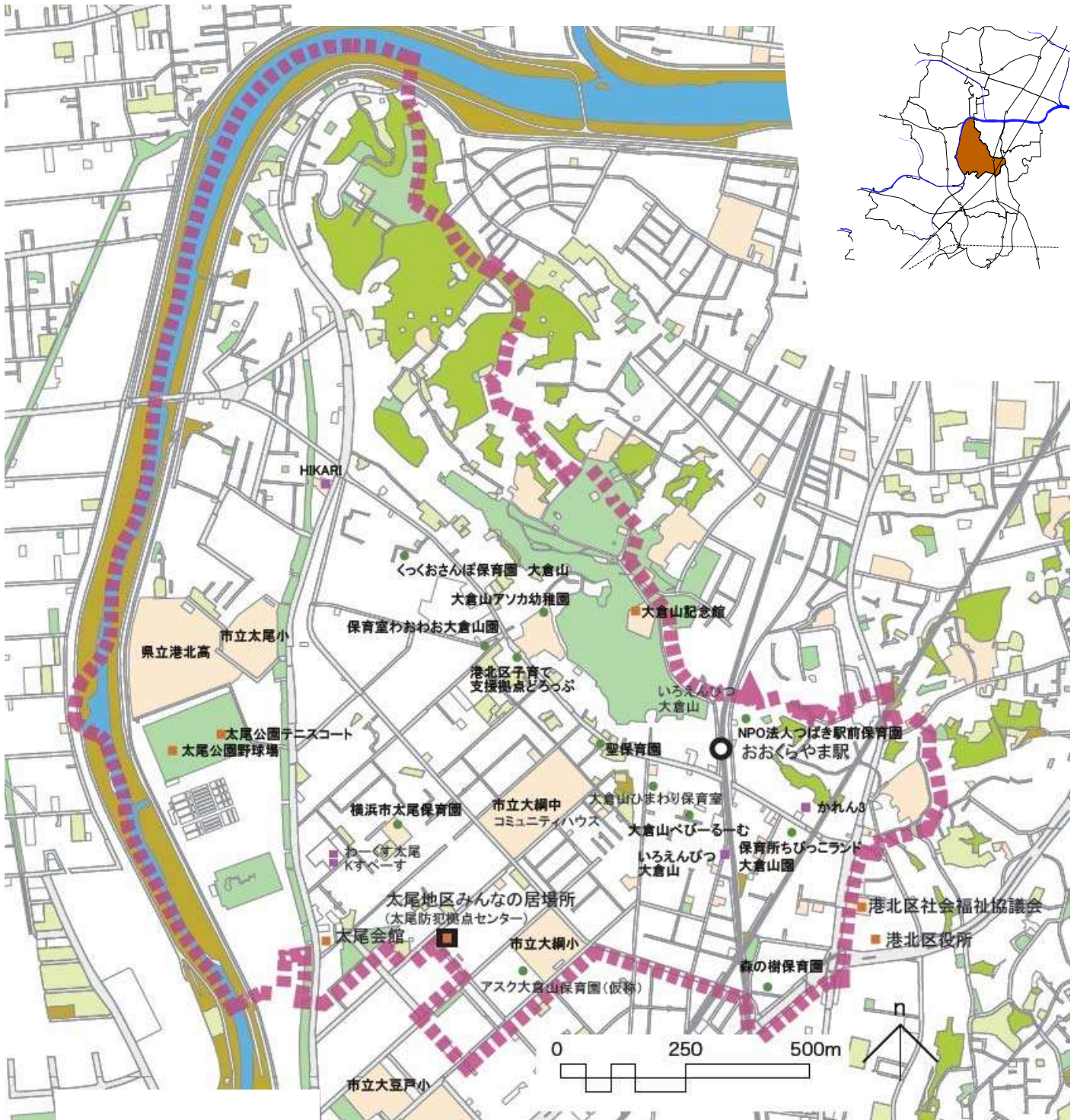
## 7 策定委員のメンバー

師岡地区連合町内会

師岡地区社会福祉協議会

# 「あいの町太尾」

— ふれあい・支えあい・助けあい —



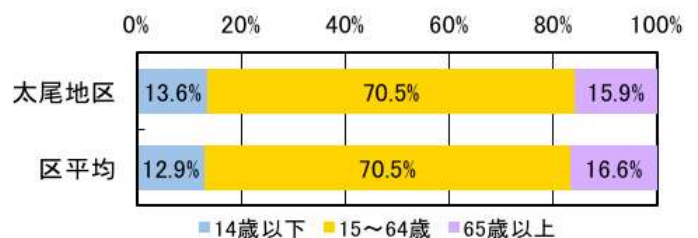
## 1 太尾地区の人口

太尾地区人口と世帯数

	世帯数	人口	平均世帯人員
太尾地区	11,260	23,663	2.10
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成22年9月末現在

年齢3区分別人口構成



## 2 わたしたちのまちの特色

私たちのまち港北区大倉山は、東急大倉山駅を中心に大倉山梅林や横浜市大倉山記念館があり、ハマの文化の発信地・また市民の憩いの場でもあり、東には港北区役所を真近に、南には新横浜駅や横浜アリーナがあり横浜副都心的要素をもった地域です。

太尾地区は現在、人口24,000人弱、11,000世帯余を擁する古くからある地区であり、新住居表示により町名は大倉山となりました。高齢者は年々増加傾向にあると共に新しい住民が多くなり、子育て中の若い世代も増えています。そこで新旧住民や世代を超えた相互交流が必要であり、更に防犯・福祉・保健などの視点からの「地域づくり、まちづくり」が大切な地域であります。

## 3 これまでの頑張り

連合町会が主体で健民祭、各種スポーツ大会、シニアクラブ連合会・防犯・防災等の活動や子供達の楽しみである祭礼、盆踊り、少年少女相撲大会など種々交流事業が実施されています。

また、福祉・保健の分野は太尾地区社会福祉協議会が主体で推進し、高齢者部会・青少年部会・子育て支援部会・地域健康部会・ボランティア部会・太尾ふれあいクラブ(家事援助)を運営し福祉・保健力の向上を推進しております。加えて平成18年以降には港北区地域福祉保健計画推進事業を含め下記の活動を順次立ち上げ、企画検討中の案件も含め継続的に推進しています。

### < 太尾支えあい祭り >

- ①地元を知ろう！太尾健康ウォーキング
- ②太尾支えあい祭り
- ③災害時に備えた要援護者の見守り  
支えあいの仕組みづくり
- ④太尾ITサロン
- ⑤大倉山便利マップの作成
- ⑥みんなの居場所の整備・活動推進
- ⑦大倉山夢まちづくり



(もちつき)



(地産の朝市)



(親子の木工教室)



(広場風景)

### < 地元を知ろう！健康ウォーキング >



水再生センターの  
見学を兼ねてウォーキング



「鶴見川流域浸水対策」の  
地下55mの水路を歩く

### < みんなの居場所 >



(拠点の外観)



(室内でのITサロン)

## 4 これから目指していく姿

- (1)ふれあい・支えあい・助けあいで、夢のある住みよい町にしよう
- (2)住民一人ひとりがつながり、あいさつし合う大きな心をもった町にしよう
- (3)世代を越えて、ふれあい・支えあい・助けあい、いざという時にも強い太尾をつくっていこう
- (4)住民みんなが積極的に地域活動に参加して、明るい『あいの町太尾』をつくろう

### 策定委員構成

- ・太尾地区連合町会
- ・太尾地区社会福祉協議会
- ・太尾地区民生委員児童委員協議会
- ・太尾地区支えあい連絡会

## 5 わたしたちのまちの取り組み

前記2項の太尾地区社協の部会運営、並びに①～⑦の活動について広く意見を交換して今後の取り組み事項を抽出しました。表中に主な目標項目を記載します。  
又今後も、推進途上で適切な提案について積極的に取り上げます。

キーワード		取 り 組 み	
		目 標	具 体 策
つながる	理解	①多くの高齢者が人とふれあう機会を増やす。 ②高齢者の会食会(見守り)は、主に一人暮らしを対象にしていたが、対象範囲を拡げ、回数も増やすと共に行事の内容についても検討する。	・保健師や警察署員等の講座もあり、高齢者への周知や理解を拡げていく。 ・高齢者の自発的な提案を尊重して、活動内容を検討し実施する。
	担い手	①太尾ふれあいクラブの担い手(有償ボランティア)の増員をはかる。	・町会掲示板での募集・周知や、社協行事実施の都度会場で担い手募集を呼びかける。
	共通	①大倉山便利マップを見直し改訂するにあたって商店街の情報を追加して利便性を改善する。 ②「大倉山夢まちづくり」の活動を通じて地域の改善、安全・安心の住みよいまちづくりをめざす。	・マップ作成チームに「商店街や地域子育て支援拠点」等に加わってもらい全面改訂する。 ・オリーブ坂の改善、大倉山公園につながる坂のネーミングの公募、歩道の整備等。
つながる	知る	①地域住民のつながりとして、世代間の交流をはかる。 ②子育て支援・高齢者会合等で、新しい催しものを企画する。又マンネリにならないように検討していく。	・町の先生の情報や他地域での拠点の活動にアンテナを張り活動の幅を拡げる。 ・ゲスト(講師)選定も工夫し少しずつ幅を拡げていく。また行事の内容に新しい試みを加える。 ・高齢者部会と子育て部会のコラボを検討する。
	活動	①家事援助活動も設立から5年を経過している。依頼受付内容に偏りもあり、サービス内容の再検討をしていく。	・現在、どのようなサービスが求められているか、再度住民にアンケート調査し対応する。
	共通	①障がい者、障害者施設との連携を更に密にし、支援・協力を検討する。	・障害者施設への担い手の発掘。 ・防災訓練等における支援・協力を検討。
		①防犯拠点センターの「みんなの居場所」の機能を拡充し、地域のつながりを強化する。	・インターネット、ホームページの開設、研修会開催時等の設備拡充、AEDの設置など ・子育て支援拠点「どろっぶ」等に拠点センターを貸し出し、又活動協力をして地域の活動活性化に協力する。
		①地域にある種々の拠点を巡回し、地域を再発見すると共に、住民間の交流を活発にする。	・「地元を知ろう！健康ウォーキング」を継続し、新旧住民などの相互交流の活性化をはかる。
	①当地区では近年マンション建設が進み、新旧住民や世代を超えた相互交流が課題であり、防犯拠点センター、みんなの居場所を活用し解決していく。	・毎年定例的に地域全町会の協力を得て「太尾支えあい祭り」を実施し、子どもから高齢者、障がい者などが交流できる場をつくる。	
つなぐ	情報	①高齢者は、外出で掲示板を見る機会も少ないので、行事に参加し易くするよう工夫する。 ①野外型のイベントに出席できない高齢者に、屋内での生きがいづくりになるサロン活動の実施を検討する。	・シニアクラブ連合会組織を通して周知する。…組織間の連携・協力 ・ITサロンを開き、生活に密着したパソコン利用術を習得し楽しんでいただく。(年賀状作成、インターネット、デジカメなどの利用方法等)
	早期発見	①災害時に備えた要援護者の見守り・支えあいの仕組みづくりをする。	・高齢者の環境に変化があった際の確認方法のルール化。定期的な訪問活動を企画し推進。
	共通	①防犯拠点センターでの介護相談や健康講座に、遠い地域の高齢者等にも参加しやすくする。	・防犯拠点センターから遠い地域については、その町内会館を利用して出張開催する。

## 6 ふり返りの仕方

計画策定に参画した各部門が随時フォローを実施するが、全体としては推進委員会を定期的に開催してふり返り、遅滞なきよう留意して的確に推進する。

尚、太尾地区支えあい連絡会は発展的に解消し推進委員会に吸収合併する。

## 7 最後に

次期港北区地域福祉保健計画を進める上で、準備会・策定委員会等において多くの委員から出された考え方や意見が集約されていきました。会合を重ねる毎に計画は進捗の一途を辿り、この度の「取り組み」が出来上がった次第、後は実行あるのみです。

# 太尾地区 地域活動の概要

## <太尾連合町会>

- ①. 健民祭
- ②. シニアクラブ連合会
  - ・クラブ(7団体)毎の活動
  - 誕生会、茶話会、お花見、健康体操等
  - ・グランドゴルフ
  - ・カラオケ大会
  - ・バス旅行
- ③. 防犯連絡協議会
  - ・子ども110番の家
  - ・防犯研修会
  - ・防犯マップづくり
  - ・防犯キャンペーン
  - ・青パトによる巡回
- ④. 体育指導委員協議会
  - ・ソフトボール大会
  - ・ソフトバレー大会
  - ・駅伝大会(走ろう会)
- ⑤. 青少年指導員協議会
  - ・ペットボトル大会
  - ・サマーデイキャンプ
  - ・防犯パトロール
- ⑥. 太尾神社例大祭
  - ・演芸、神輿、山車
- ⑦. 子どもと親の盆踊り
- ⑧. 太尾消防団活動
- ⑨. 大綱中、地域医療救護拠点
- ⑩. 大綱、太尾小地域防災拠点

### <消費生活推進委員会>

- ・研修&エコ製品づくり、等

### <保健活動推進委員会>

- ・介護予防、健康づくり等

### ・その他活動(ボランティア活動を含む)

- ・太尾少年少女相撲大会
- ・そば打ち隊
- ・男の料理教室

### <大倉山夢まちづくり>

- ・連合町会、商店街合同で立ち上げ(H22.6.24)
- ・第2回(7/21):区役所関係者も立会い打合せ以降、継続推進

<港北区役所> 福祉保健センター・地域振興課、等

## <太尾地区民生委員児童委員協議会>

- ・災害時に備えた要援護者の見守り、支えあいの対応

### 地域住民全般

高齢者

青少年

子ども

障がい者

- ・新旧住民の交流
- ・異世代間住民の交流

### 学校関係

港北高校  
大綱中学校  
大綱小学校  
太尾小学校  
大綱中コミュニティハウス

### 学童保育クラブ

太尾学童クラブ  
太尾第2学童クラブ

(よいこ)

### 子育て支援施設

どろっぶ  
太尾保育園  
アソカ幼稚園

(べびーるーむ)  
(聖保育園)  
(森の樹保育園)  
(アスク大倉山保育園)

### 障害者施設

わーくす太尾  
HIKARI作業所  
K・すべーす

(いろえんびつ)  
(かれん)

## <太尾地区支えあい連絡会>

### A. 港北区地域福祉保健計画推進事業

- ・地元を知らう! 太尾健康ウォーキング

- ・太尾支えあい祭り

- ・災害時に備えた要援護者の見守り支えあいの仕組みづくり

- ・太尾ITサロン

- ・大倉山便利マップの作成

### B. 次期地域福祉保健計画推進事業

- ・策定委員会の立ち上げ

- ・地区計画策定(7/20~)

## <太尾地区社会福祉協議会>

### <社協部会活動の概略>

#### ア. 高齢者部会

- ・一人暮らし高齢者のお茶とお話しの会

- ・太尾フレンドサロン「いこい」: 推進中  
70歳以上高齢者世帯等対象のサロン

#### イ. 青少年部会

- ・青少年環境健全化活動

#### ウ. 子育て支援部会、太尾っ子広場

- ・未就園児童と保護者対象のサロン  
七夕飾りづくり、クリスマスリースづくり、  
親子でリズム体操、等 (年10回開催)

#### エ. 地域健康部会

- ・囲碁、将棋を楽しむ会

- ・グランドゴルフ交流会(春・秋)

- ・ペタンク交流会

- ・ウォーキングの集い

#### オ. ボランティア部会

- ・健康体操(はまちゃん体操等)

- ・福祉講座(介護・認知症予防、口腔ケア等)

- ・体力向上プログラム

- ・障害者施設に対する支援策を検討中

#### カ. 太尾ふれあいクラブ(家事援助等)

- ・買い物、掃除、洗濯、草取り、枝払い、  
ゴミ出し、見守り・声かけ等

- ・担い手の発掘、増員計画推進中

#### キ. みんなの居場所の活動支援

- ・支えあい祭り、ウォーキング、ペタンク、  
グランドゴルフ、等

- ・福祉相談、防犯相談、等

- ・ボランティア活動(エコ畑、各種教室、等)

- ・異世代交流(囲碁、将棋他)

- ・研修会、各種会議

- ・どろっぶ、わーくす太尾等が利用

#### C. 学校関係

- ・ふれあい給食会

- ・学援隊活動

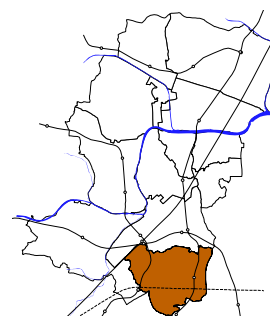
#### D. G30 ふれあいフェスタへの協賛

#### E. ケアプラザ わくわく祭りへの協賛

#### F. 子育て支援「どろっぶデー」への協力

<大豆戸地域ケアプラザ>





# 「わがまち 篠原」



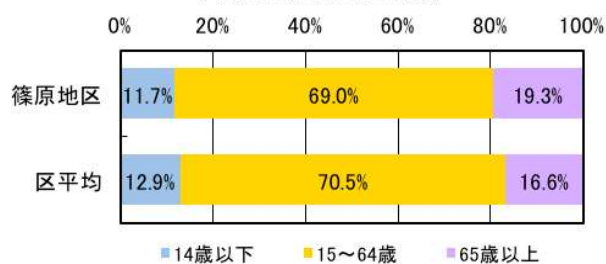
## 1 篠原地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
篠原地区	18,846	39,273	2.08
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## 2 わたしたちのまちの特色

篠原地区は、菊名・富士塚・篠原町・篠原西町・仲手原・篠原台町・篠原東の7町からなり、12の自治会があります。

地区の東部に東急東横線、北部に横浜線、西部に市営地下鉄の駅があり、特に横浜の陸の玄関、新横浜駅に隣接しているなど、比較的交通便利な地区です。

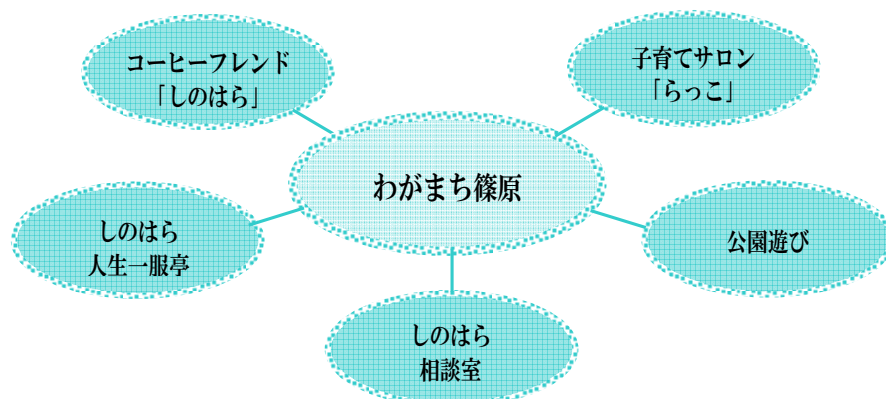
土地は起伏に富み、細い道も多いですが、緑が多く、環境の良いところが自慢です。

住民を年齢別にみると、25歳から40歳までが大きな山を、次いで45歳から60歳までが小山をなしており、高齢化率は19.3%で区平均と比べると若干高い程度に見えますが、絶対数は多く、1人住まい、2人住まいの高齢者が多くなっています。高齢者は、将来さらに増える見込みです。



傾斜地の公園（篠原町会下谷第二公園）

住民には比較的意識の高い人が多く、ボランティア活動も活発で、地域での子育て支援、高齢化への対応など取り組みが活発ですが、高齢化に伴って担い手を拡大し、各活動を横つなぎする必要性が強まってきており、特に若い人や、男性の活動参加が望まれています。



## 3 これまでの頑張り

篠原地区では、各自治会や種々のボランティア団体によって、既にいろいろな福祉メニューが取り組まれてきています。各町内会館でミニデイサービス、育児サークルが活発に行われています。そのような背景の中で、第1期計画では、「交流」「ボランティア」「安心・安全」「相談・情報」という4つの分科会を中心に活動しました。

「交流」では、お花や野菜の販売をきっかけに、施設間・団体間の交流や、活動のネットワーク化、異世代の交流が始まっています。

「ボランティア」では、やってほしいことや、参加する意向についてのアンケート、「安心・安全」では、非常時における高齢者のニーズと、支える人を集める方法についてのアンケートがそれぞれ実施され、ボランティア活動や、支援活動の必要性や要望が明らかにされてきています。



人生一服亭



自然体験教室



昼食会

「相談・情報」では、ホームページづくりが進められ、「ホームページ立ち上げ委員会」が作られて、サーバにアップされました。トップページのタイトルは「わがまち篠原」で、地域団体やサークルの発表、医療機関などへのリンクを含むなど、各種の活動について報告が載ることにより、次の活動につながる効果など、地区のホームページとしての目的を追求しています。

公開されたホームページ「わがまち篠原」

次のように「わがまち篠原」と入力して、ホームページを訪ねてみてください。

わがまち篠原  クリック

#### 4 これから目指していく姿

**安全で安心して暮らせるまち**  
**ひとりひとりがつくる 篠原**  
**子どももおとなも いきいき 篠原**  
**みんなで声をかけ合う 篠原**

## 5 わたしたちのまちの取り組み

篠原地区では、既にいろいろな福祉メニューに取り組んでいます。そうした中で、第2期は、個々で行っているメニューを更にネットワーク化すること、既に行っているものをつなげ、ひろげていきます。

そのため「ひっとプラン港北」の3つのキーワード（ひろがる、つながる、とどく）に対応して、つぎのような具体策を掲げます。

キーワード		取組	
		目標	具体策
ひろがる	理解	●子育てサークルと地域ミニデイとの交流を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会町内会の状況に応じて、可能な開催方法を検討します。</li> <li>開催場所を検討し、増やします。</li> </ul>
	担い手	●ボランティアの交流を図り、新たなボランティアの可能性を広げます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、ボランティア講座を実施します。</li> <li>男性ボランティアや、高校生のボランティアなどを増やします。</li> </ul>
つながる	知る	●障がい児の居場所づくりを行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい児への理解を深め、居場所づくりから検討を始めます。</li> <li>学校とも連携し、具体的活動方法を検討します。</li> </ul>
	活動	●地域活動の更なるネットワーク化を検討します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各自治会や各団体の活動を尊重し、ボランティアの交流や、連絡協議会の設置など、横の連携を検討します。</li> </ul>
とどく	情報	●ホームページを活用します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域団体やサークルの活動予定や活動報告を紹介します。</li> <li>リポーターを探します。</li> <li>情報量を増やし、充実させます。</li> </ul>
	発見早期	●安心・安全のため、要支援者を把握し、非常時のための支援活動をします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時のあんしんカードを検討し、1地区で具体的な形にします。</li> </ul>

## 6 ふり返りの仕方

策定委員会を篠原地区地域福祉保健計画推進委員会に改組して、定期的（半期毎）に活動をふり返り、推進体制や具体化に向けた進め方などを検証します。あわせて目標と具体策に沿って進行管理・推進を行います。

引き続き、分科会を概ね2か月に1回開催します。

- ・「わがまち篠原」策定委員会：

委員長 川島武俊（篠原地区連合自治会長）

- ・問合せ先：港北区福祉保健課（540-2466）  
港北区社会福祉協議会（547-2324）

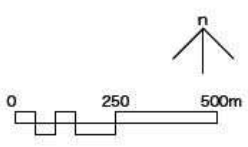
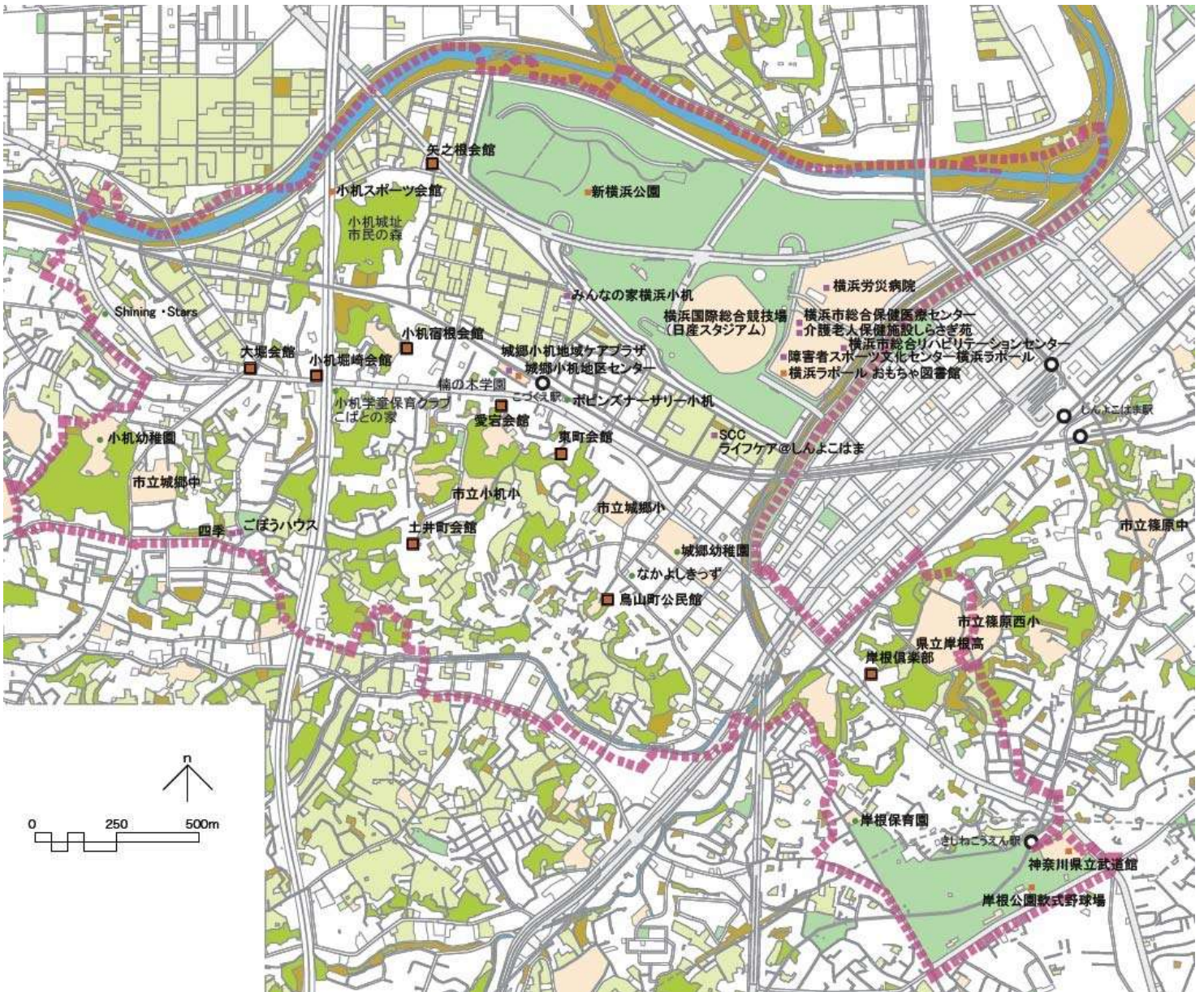
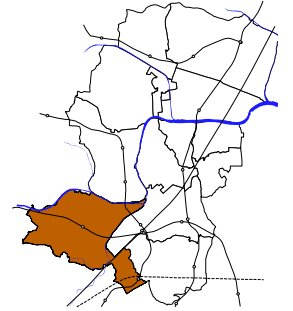


防災訓練



ウォーキング

# たすけあうまち城郷



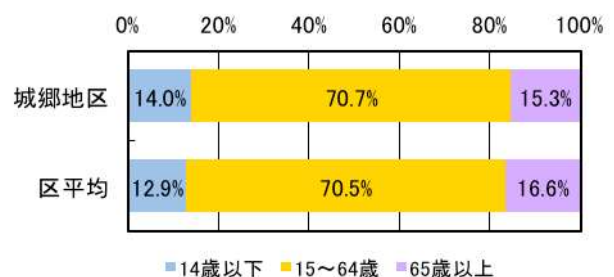
## 1 城郷地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
城郷地区	10,724	23,413	2.18
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



# 「たすけあうまち城郷」達成のための活動指針

## 2 わたしたちのまちの特色

城郷地区は、小机町・鳥山町・岸根町からなり、9つの自治会町内会があります。鉄道駅は、横浜線小机駅と市営地下鉄岸根公園駅があり、新横浜公園、岸根公園、小机城址市民の森、日産スタジアム、横浜労災病院、横浜ラポール等の資源に恵まれています。

現在人口は約23,400人で、約10,700世帯が住み、年々少しずつ増える傾向にあります。年齢別にみると、25歳から45歳までが大きな山を、次いで45歳から65歳までが小山をなしており、高齢化率は15.3%と区平均よりも低いのですが、子育て支援と並行して高齢化への対応が徐々に大きな課題になりつつあります。

小机町と岸根町を中心に、子育て中の新住民の増加が目立ち、新旧住民の相互交流が必要になっているとともに、子育て支援や高齢者のミニデイ、障がい者との交流等といったボランティア活動の担い手拡大、各活動を横つなぎする必要性が強まっています。

## 3 これまでの頑張り

第1期計画では、「交流」「情報・相談」「ボランティア・担い手」という3つの取り組みを行いました。

「交流」の具体的な成果は、城郷小机地域ケアプラザによる交流情報の発信機能強化、発達障がい児向けの「しろさと地区放課後プラザ」の設置、平成22年4月にはコミュニティハウス「ホッと・カフェ」が開設されました。ミニデイサロン「城郷ひろば」に続き、平成17年1月からはグループひまわりによる「ふれあい昼食会」、平成20年9月からは毎月工夫を凝らしたプログラムで開催する交流サロン「城郷よってこ会」など、様々な交流会が有機的に活動の輪を広げています。さらに、転倒予防体操や健康体操などのグループが活動を通じて交流を深めています。

また、相互支援・交流を目的に、家事支援ボランティア「城郷ふれあいの会」が平成19年9月より活躍し、市民生活を地域で支えています。

「情報・相談」の具体的な成果は、『ふくしの城郷』・『ふくしの伝言板』等のポスティング、支えあい連絡会作成の家庭用緊急連絡先カードの全戸配布、地区民児協による子育てサロンでの相談の実施などです。

「ボランティア・担い手」の具体的な成果は、グループひまわり・城郷ふれあいの会・城郷よってこ会などで多くのボランティアが登録し活動が定着しています。また、自治会町内会によるチラシ配布などで効果をあげています。

## 4 これから目指していく姿

地域みんなが「たすけあうまち城郷」





- (1) みんなが世代や立場を超えて交流するまち  
【交流】
- (2) 必要な情報が伝わり相談しやすい安心のまち  
【情報・相談】
- (3) 担い手が広がり活動につながるまち  
【ボランティア・担い手】



## 5 わたしたちのまちの取り組み

策定委員会では、第1期計画での取り組みの検証をもとに、計画内容を検討した結果、次の4つを取組み目標とします。「ひっとプラン港北」の3つのキーワード（ひろがる、つながる、とどく）に対応して、取組みの目標と具体策を下記のように掲げます。

- ① 城郷よってこ会の地域展開（拡充）
- ② しろさと地区放課後プラザの支援（拡充）
- ③ ホットカフェの地域支援（拡充）
- ④ 地区ボランティア連絡協議会の設立と取組み（新規）

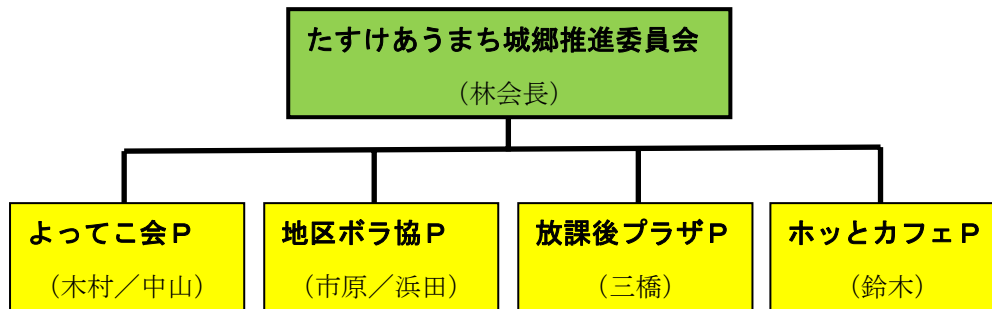
キーワード	取組	
	目標	具体策
ひろがる	<p><b>理解</b></p> <p>●よってこ会の地域展開 毎月行う高齢者サロン「よってこ会」をできるところ（自治会町内会単位）でできる形で実施。</p> 	<p>○自治会町内会の状況に応じて、可能な開催方法を検討 （支えあい連絡会主体、老人クラブと連携、自治会町内会＋民生委員など）</p> <p>○開催場所（町内会館、空き家等）の検討・確保</p>
	<p><b>担い手</b></p> <p>●地区ボランティア連絡協議会の設立と取組み 各地域・各テーマで活動するボランティアグループが協働して、担い手問題等に取組む</p> 	<p>○地区社協の助成8団体を中心に、参加を呼び掛け協議会を設立 （自治会町内会を入れる）</p> <p>○準備会で活動内容を検討し、活動を開始 （情報交換会やボランティアの集いの開催、担い手育成講座等）</p>
つながる	<p><b>知る</b></p> <p>●しろさと地区放課後プラザの支援 自閉症・ダウン症等の発達障がいの子どもの居場所事業。現在の対象者は約5名、ボランティアは約10名。昨年12月から月1回程で実施。</p> 	<p>○事業拡大、開催頻度の拡大を検討 （対象者は約20名いることが分かっており、ボランティア増員、補助金の増額等）</p> <p>○学校との連携方法の検討</p>
	<p><b>活動</b></p> <p>●ホットカフェの地域支援 区社協の「みんなの居場所事業」を活用し、空き店舗活用の障がい児等の居場所としてオープン。地域との関わり強化が課題。</p> 	<p>○施設の地域開放利用の促進 （地域住民等が利用しやすい環境づくり、入りやすいようPRのためののぼり旗の設置）</p> <p>○地域の集まりや交流事業への参加の促進 （経営するお母さんによる地域との関係づくり）</p>

## 6 ふり返りの仕方

策定委員会を第2期地域福祉保健計画城郷地区推進委員会に発展的に改組して、1年ごとに活動を振り返り、推進体制や具体化に向けた進め方などを検証する司令塔的な役割を果たします。

具体的には、推進委員会のなかに、4つの取組みごとにプロジェクトを立ち上げ、リーダーを中心に推進、検証をすすめるものとします。

### 【計画推進体制】



## 7 活動風景



城郷ひろば



ホッとカフェ



ふれあい昼食会の準備



よってこ会の野菜直売



### ・策定委員名簿

〈委員長〉 林正之 城郷地区社会福祉協議会会長

〈副委員長〉 木村孝子城郷地区地域支えあい連絡会会長、小坂眞代前城郷地区民生委員児童委員協議会会長

〈事務局長〉 市原政喜城郷地区社会福祉協議会事務局長

〈委員〉 多田野右一城郷地区連合町内会副会長、蛭田勇治郎鳥山自治会副会長、

浜田正二岸根町内会副会長、三橋恵子主任児童委員、

浜田ヨシ子城郷地区保健活動推進員会会長、中山千加子城郷地区地域支えあい連絡会副会長、

村岡安良前城郷ふれあいの会会長、鈴木笑子グループひまわり代表、橋本あや子城郷ひろば代表



# 「和、輪、話」のまち につば

平和・福祉の「和」、みんなが手をつなぐ「輪」、みんなが話し合う「話」



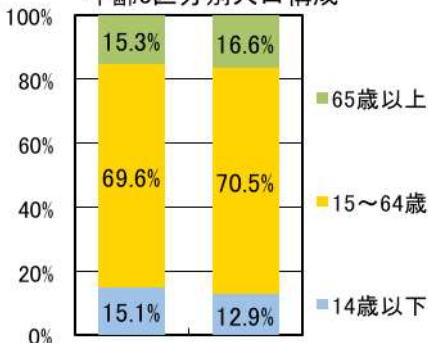
## 1 新羽地区の人口

新羽地区人口と世帯数

	世帯数	人口	平均世帯人員
新羽地区	6,150	12,985	2.11
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



新羽地区 区平均

## 2 わたしたちのまちの特色

新羽地区は、新羽町、北新横浜をその範囲にしています。総人口は12,985人（平成22年9月末現在）、5年前に比べて982人増加しています。当地区は高齢者よりも、年少人口の割合が高く、区内でも2番目となっています。一方、高齢者は5年前に比べ4.3%、約665人の増加となり高齢化が進んでいます。

新羽地区には8つの町内会があります。近年、工場や倉庫が多かった地下鉄沿線にマンションが新設され、若者世代の増加が目立ってきています。一方で、町内会加入率は低下してきており、加入促進が今後の課題となっています。

新羽駅、北新横浜駅周辺に医療施設ができて、具合が悪くなくても地元ですぐに診察してもらえるようになったことは高齢化が進む中での安心材料です。一方、幼稚園は一つしかなく他地区の施設に頼る現状です。

**また、新羽地区には、福祉保健の拠点となる施設がありません。地域ケアプラザ、地区センターの建設は地域の住民の切なる要望です。**

緑道公園が北新横浜から新吉田まで整備が完了しました。又、地区の東側、南側に鶴見川が流れています。これらの資源を大いに活用していきたいものです。

## 3 これまでの頑張り

第1期地域福祉保健計画にもとづき、新羽地区では「パワーアップにつば」「竹の子につば」「たんぼぼにつば」などの活動を推進してきました。

第2期計画の策定に先立ち、準備委員会を開催し、第1期計画の(1)交流、(2)情報・相談、(3)場所・拠点、(4)ボランティア・担い手、(5)安心・安全の5項目について振り返りを行いました。

### (1) 交流

イベントは開催できたが宣伝がまだ不十分でした。フェスティバルは地域行事として定着した一方、健民祭、防災拠点訓練等は毎年実施しているものの、参加者に偏りがあります。町全体の行事になるようにしていくことが課題です。

交流の仕組みづくり、障がい者を理解して地域との交流を充実すること、情報伝達の方法等は今後も継続して検討すべき課題として残りました。

### (2) 情報・相談

町内会加入が62%と低いことが情報の伝わりのネックとなっています。子ども会、老人会、PTA等を通じて加入促進を図っていくことが課題です。

### (3) 場・拠点

新羽地区最大の丘陵公園の有効利用を検討します。高齢者の活動の場を作るため老人会との連携を検討します。

### (4) ボランティア・担い手

担い手の人材不足を解消するため、活動のPRの方法等の検討が必要です。

### (5) 安心・安全

防犯灯のLED化の推進、学援隊との連携による学童の見守り、新入生への黄色い帽子の贈呈は今後も続けていきます。

## 4 これから目指していく姿

新羽地区6,150世帯の絆をより強くし、「思いやりと花と緑のまちづくり」のために、次の4点を基本テーマとして、地域福祉の取り組みを進めます。

- (1) 災害時に援護が必要な人の把握を進めより充実した活動にしていく。
- (2) 地域の福祉活動の情報の共有や周知の徹底を図る。
- (3) 異世代交流を、より活発にしていく。
- (4) 「新羽」のまちを知る活動を進める。

## 5 わたしたちのまちの取組

「ひろがる」、「つながる」、「とどく」をキーワードに、新羽の目指していく姿の実現に向けた取り組みを進めます。

情) 情報の共有や周知 異) 異世代の交流 町) まちを知る

キーワード	取組		
	目標	具体策	
ひろがる	理解	異) 地域にある活動グループの周知 異) 役員相互の連絡協力ができる体制づくり 町) 町を愛してもらい、町の現状を知る、町の地理を知る	異) 町会定例会で、役員にお願いする 異) グループに窓口をつくり、その団体の連絡網を活用して情報を伝える 町) 住民に見どころの多い「にっば」をPRする
	担い手	情) 人材募集のPRの仕方を工夫し、60歳以上の人達にも活躍してもらい 異) 趣味等の、同好会、クラブなどの掘り起こし 町) 町内会各役員（地区社協評議員）及び有志を中心に担い手を確保する	情) 町内会役員会等、各種委員会にてPRする 異) 町会を通じて聞き取り調査をする
つながる	知る	情) 青指、体指、町会、子ども会、民生委員児童委員、ボランティア団体それぞれの活動をつなげる 情) 小中学校との連携 異) 様々な世代が参加してまちを歩き、まちを知る 町) 名所を巡るとともに、福祉施設や避難場所を覚える	情) 各団体と連携して、新羽地区の催し物カレンダーを作って配布する 情) 学校・家庭・地域連絡協議会に積極的に参加する 異) 「パワーアップにっば」と老人会がハイキングを計画する 町) ハイキング、ウォーキングのルートや見所のマップづくり
	活動	異) 青指、体指、子ども会の三本柱の強化 異) グループの催し物などに他のグループが参加し協力するようにする 異) 「ガッツにっば」の活動の活発化 町) 様々な世代が利用できる山間部と緑道の散策ルートをつくる	異) 青指、体指、子ども会の活用をはかる 異) 「竹の子にっば」の芋煮会に「たんぼぼにっば」が参加する 異) 「たんぼぼにっば」を老人会が手伝う 異) 様々な世代が参加できるソーメン流しなどの催し物を定例化する 町) ハイキング、ウォーキングのルートや見所のマップづくり

とどく	情報	情) すべての人にすべての情報を届けるのではなく、必要な人に必要な情報が届くようにする 異) 地域の年間行事予定をつくる 町) 野菜や果物を直販しているところを知りたい、伝えたい 町) 鶴見川周辺にある資源をいかす	情) 町会未加入者に対しても PR できるように掲示板を増設し積極的に活用する 異) 各種団体が年間計画を出し合い、年間行事計画をつくり、掲示板等に掲示する 町) マップをつくり、個人でも楽しめるようにする 町) 年 2 回程度ウォーキングを開催する 町) 鶴見川周辺でコスモスの植栽、ホタルの飛べる環境の再生、10 万本のチューリップ畑づくりなどをすすめる
	早期発見	情) 老人会や敬老会行事を通じて高齢者や独居者の情報把握をすすめる。行政との連携もすすめる。	情) パワーアップにつば、老人会、民生委員から情報を得る

## 6 繰り返りの仕方

取り組み項目の進捗<sup>しんちよく</sup>については、年度初めの 4 月をめどに実行委員会を開催し、分科会ごとに振り返りを行い達成度合いを確認し、次年度の活動の修正を行っていきます。また、地区社協の総会で活動報告を行うこととします。

## 7 最後に



地域福祉保健計画の立案にあたって、準備委員会を立ち上げて方向を決め、策定委員会での検討へと進みました。策定委員会での今後の進め方を検討した結果、地区社協評議員会を開催し、新羽町を北、中、南地区にわけ、現在行われていることのリストアップまた、今後必要と思われること(課題)の洗い出しを行いました。

次に、評議員の中から各団体の責任者を中心に人選し、実行委員会を作り 4 つの基本テーマに対応した分科会を組織しました。

第 1 期地域福祉保健計画では、新羽地区支えあい連絡会で計画を推進してきましたが、第 2 期の計画では、みなさんの協力・支援を得ながら、実行委員会が責任をもって推進していきます。

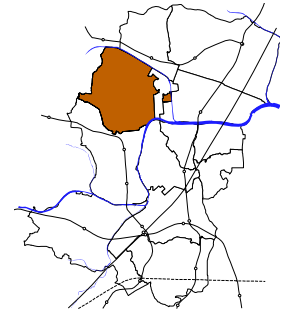
なお、平成 20 年度には、「災害時要援護者支援事業」に取り組み、災害時に援護が必要な人の把握や支援方法について検討をすすめました。

これから目指していく姿の取り組み (1) については、個人情報の扱いについて十分に留意して取り組むものとし、『「和、輪、話」のまち につば』から独立した地域の取り組みとして並行して展開します。

### 計画づくりに参加した組織・団体

新羽町連合町内会、新羽地区社会福祉協議会(地区社協)、新羽地区民生委員児童委員協議会、保護司会、保健活動推進員会、パワーアップにつば、竹の子につば、たんぼぼにつば、大竹シニアクラブ、新羽町連合子ども会(子ども会)、青少年指導員(青指)、体育指導員(体指)

# いいな！みんなのまち 新吉田



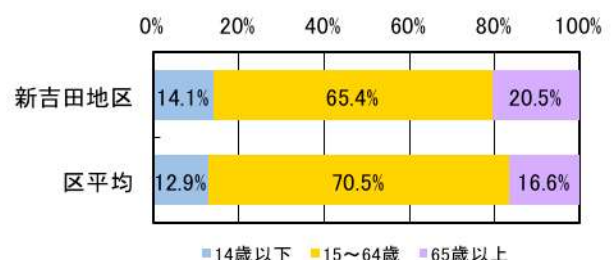
## 1 新吉田地区の人口

新吉田地区人口と世帯数(概数)

	世帯数	人口	平均世帯人員
新吉田地区	8,690	20,330	2.34
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## 2 わたしたちのまちの特色

新吉田地区は東西約 1.5km、南北約 1.5km の区域で、12 の自治会町内会があります。この区域に約 8,690 世帯、20,330 人が暮らしています。世帯規模が 2.34 人/世帯と大きいことが特徴です。

地区の東側、南側が住宅市街地になっています。宮内新横浜線の沿道で人口増加が続いていますが、全体として、人口は安定傾向にあります。15 歳未満と 65 歳以上の人口の比率がともに区平均を上回っています。

地区の西側、北側は丘陵地になっており、農地や樹林地が多く残っています。この区域に、高齢者や障がい者の福祉保健施設が多く立地しています。

## 3 これまでのがんばり

平成 17 年夏、連合町内会が懇談会を開催し第 1 期の地区別計画を策定しました。この第 1 期の地区別計画から、地域発の事業がたくさん生まれています。

「ほっと新吉田」や「もみじの会」等のボランティアや民生委員、地域ケアプラザ、港北区社会福祉協議会が協働して、福祉体験教室、車椅子体験教室、アイマスク・手話の体験教室など多様な活動に取り組んできました。

この結果、「今まで知らなかった人と出会うきっかけとなった」、「挨拶を交わす人が増えた」、「ボランティアや担い手が増えてきている」、「困ったことが起きても相談できる人や場所が増えた」、「学校や福祉施設などとの交流や連携が図れるようになってきた」「誰でも地域の情報を手に入れられるようになった」等の成果がうまれています。

また、区の西側のボランティアの拠点として港北区社会福祉協議会がボランティアセンター「やすらぎの家」を開設したことにより地域の活動を支援する拠点が確保されました。この拠点は、新吉田地区社会福祉協議会が管理しており、月、水、金に開館し、何でも相談できる地域の窓口として機能しています。今後、この拠点やその活動を地域に周知・PR し、地域の福祉活動の拠点として一層有効に活用していきます。

一方で、「男性の参加者が増えない」、「必要な人に情報を届ける方法の検討」などの課題が見えてきました。

## 4 これから目指していく姿

一人ひとりが手をつなぎ、明るく、住みよい福祉のまちを目指します。

## 5 わたしたちのまちの取り組み

### 取り組みの進め方

- 1) 第1期計画5年間の成果を踏まえて取り組みを継続・充実します。
- 2) 今後の事業継続に欠かせない次世代の担い手を確保します。
- 3) 様々な活動が各々相互に結びつくようにネットワーク化します。

### 取り組みの方向 - 3つの柱

- 1) 災害時要援護者の支援  
災害時に援護が必要な人の把握をすすめ、日常の見守り等の活動に活かします。
- 2) 高齢者への対応  
高齢化する団塊の世代を地域で受け止め、介護予防などを支援します。
- 3) 子育て世帯の支援等  
3歳以下の未就園児、乳幼児とその保護者を支援します。学校と地域の連携を強化します。

キーワード		取り組み	
		目標	具体策
ひろがる	理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障がい者等の理解を広める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの「夏休みボランティア体験」「車椅子体験」「夏休み福祉体験」を継続する。</li> <li>・通学時の付添い、保育園送迎、外出時の見守り等障がい児の生活支援を継続する。</li> <li>・世代間の交流をすすめる。</li> </ul>
	担い手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動のPRやボランティアの研修、募集により担い手を広げる。</li> <li>・子育ての世帯の支援を充実する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会（ボランティア入門講座、高齢者、介護、認知症）を継続する。</li> <li>・広報「ほっと新吉田」によるボランティア募集を継続・充実する。</li> <li>・「ふれあい動物園」「手遊び講座」「音楽会」「芋掘り体験」など親子のふれあい、子育て世帯の支援を継続・充実する。</li> </ul>
つながる	知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動や町の活動を知る。</li> <li>・地域の世代間交流をすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動や町内会・自治会の活動の把握をすすめ、連携や役割分担をする。</li> <li>・運動会、盆踊り、お祭り等の地域交流イベントを継続・充実する。</li> </ul>
	活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な活動をネットワークする。</li> <li>・学校、PTAと地域の連携をすすめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動や町内会・自治会の活動の把握をすすめ、連携や役割分担をする。</li> <li>・小学校の子どもへのプールの付添い支援等を継続・充実する。</li> </ul>

と と く	情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な人に情報を届ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口「やすらぎの家」の活用する</li> <li>高齢者のニーズに関するアンケート調査の結果の分析をすすめ活用する。</li> <li>広報「ほっと新吉田」の刊行継続・充実する。</li> </ul>
	早期発見	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時に援護が必要な人を把握し、日常活動にも活かす。</li> <li>徘徊する高齢者を早期発見する仕組みをつくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町会別に要援護者を把握しリストをつくり連合でまとめる。</li> <li>町会で調べたものと、市の情報を照合してリストをつくる。</li> <li>要援護者のリストを適切に維持管理して、日常の見守り、声かけ等の活動に活かす。</li> <li>防災訓練を継続・充実する。(要援護者のリストを活かす)</li> <li>地域ケアプラザ等と連携して高齢者の早期発見や問い合わせに対応できる仕組みをつくる。</li> <li>隣接する地区と連携するネットワークを作る。</li> </ul>

## 6 繰り返りの仕方

地区別計画に定めた「目標」を着実に実現するため、計画の策定委員会を推進委員会に改組します。推進委員会は活動を定期的に振り返りながら、計画を推進、実現して行きます。



## 7 最後に

第2期地域福祉保健計画新吉田地区計画は、準備会（4回）や策定委員会（5回）を開催して作成しました。

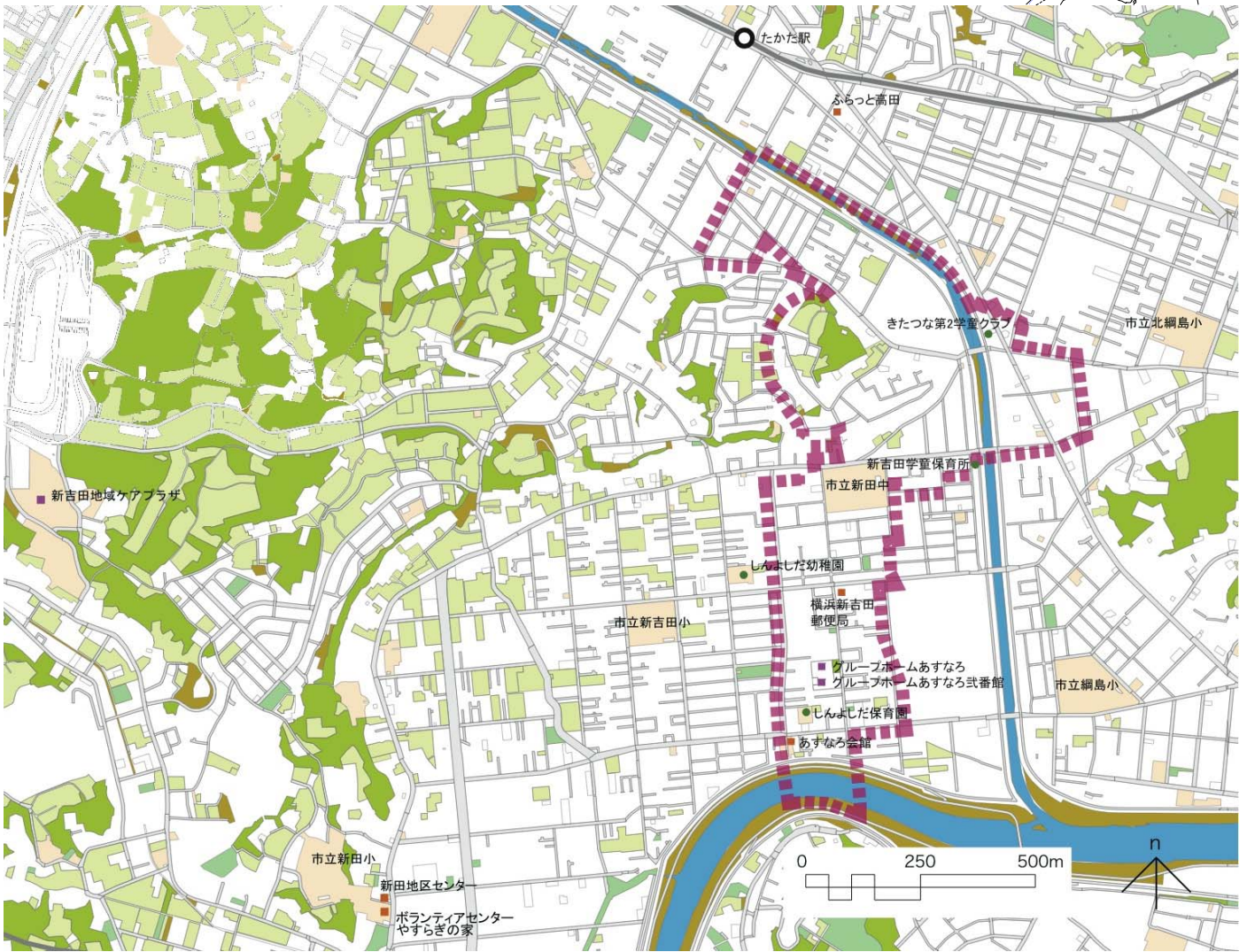
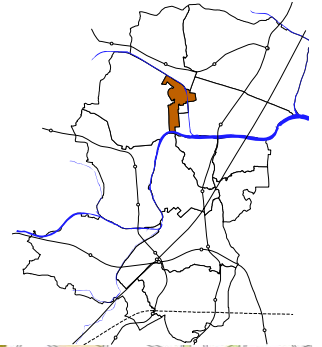
この計画にもとづいて、新吉田地区の福祉保健のまちづくりをすすめ、目標の実現を目指します。

### 計画づくりに参加した委員

新吉田連合町内会会長、新吉田地区社会福祉協議会会長、新吉田地区民生委員・児童委員協議会会長  
 新吉田地区の12町会の町内会会長、新吉田地区社会福祉協議会事務局長・事務局次長・会計  
 ほっと新吉田代表、もみじの会代表、保健活動推進員地区会長、環境事業推進委員代表  
 港北区消費生活推進員代表、新吉田小学校校外委員長、民生委員・児童委員



# もっと・ホットに 「あすなろ」



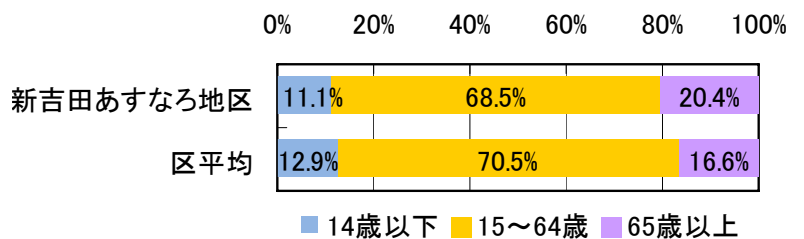
## 1 新吉田あすなろ地区の人口

新吉田あすなろ地区人口と世帯数  
(概数)

	世帯数	人口	平均 世帯 人員
新吉田あすなろ 地区	3,370	6,990	2.07
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## 2 わたしたちのまちの特色

新吉田あすなろ地区連合町内会には、旧来の市街地の自治会町内会 5つとマンションの自治会町内会 5つ、合計 10 の自治会町内会があります。

住宅が増えており、昔は畑だったところがアパートやマンションになりました。また、工場の跡地もマンションになっています。もともと一軒家があった土地が空くと、そこを分割して複数の家を建てて販売をされる傾向があり、それを購入した若い世代が他の地区から転入しているようで、若い世代の比率は区の平均を上回っています。また団塊の世代も多く暮らしている地区です。

新吉田あすなろ地区は、区域としては小さく、まちづくりの担い手となる人が少ないものの、まともは最高と自負しており、福祉保健のまちづくりを頑張っています。

## 3 これまでのがんばり

第 1 期計画にもとづいて、様々な活動を推進してきました。

多様な世代が参加する盆踊り大会やふれあい運動会などの交流イベントや防災訓練に、地域全体で取り組んでいます。高齢者や子育てについても個別の活動を行ってきました。「あすなろまつり」（高齢者グループホームあすなろ）へも参加をしています。あすなろ地区の防災訓練には障がいのある方も参加しています。

また、徘徊高齢者を早期に発見するしくみ「あすなろさがしてネット」の活動をすすめるなど、地域の特徴や課題に応じた独自の取り組みも行っています。

平成 21 年度には、「災害時要援護者対策事業」に取り組ましました。災害時に支援が必要な方の把握を行い、日常的な見守りや災害時の支援方法などの検討をすすめました。

今後は、団塊の世代、高齢者や障がいのある方等地域の居住者の実態把握や活動の担い手の確保をすすめ、活動に対する理解を地域内でさらに高めることを目指します。



盆踊り大会の様子

## 4 これから目指していく姿

新吉田あすなろ地区のスローガンに基づき福祉保健のまちづくり活動をすすめていきます。

- (1) みんながコミュニケーションをとれるまち あすなろ
- (2) 声かけと顔の見える関係づくりのまち あすなろ
- (3) 誰もが困っている人に手を差し伸べられるまち あすなろ
- (4) みんなが交流を深め、まちづくりに参加するまち あすなろ
- (5) 子どもも大人も安心して安全に生活できる、活力あるまち あすなろ

## 5 わたしたちのまちの取組

キーワード		取組	
		目標	具体策
ひろがる	理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんながコミュニケーションをとれるまち</li> <li>・声かけと顔の見える関係づくりのまち</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の研修会の回数を増やしたり、障がい者やその家族との交流の機会を増やす等、理解をひろげる取組を充実します。</li> <li>・「あすなるまつり」（グループホーム）への参加、障がい者施設の訪問・見学などを通じて、障がい者や高齢者への理解をひろげる取組を継続・充実します。</li> </ul>
	担い手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが交流を深め、まちづくりに参加しよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「盆踊り大会」、「お祭り広場」や「ふれあい運動会」、「防災訓練」など地域全体でとりくむ交流イベント等で地域福祉保健計画の活動のPR等を行い、活動の周知や担い手の確保をすすめます。</li> </ul>
つながる	知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもも大人も安心して安全に生活できる、活力あるまちにしよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育てサロン」を継続する等、若い世代が安心して住める取組を進めます。</li> <li>・「一人暮らし高齢者サロン」「シルバー健康体操」「転倒・骨折予防体操教室」などの活動を継続・充実し、生活支援の必要な高齢者、元気な高齢者の健康維持等、高齢者が安心して元気に暮らせる環境づくりをすすめます。</li> </ul>
	活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する地域と連携して「あすなるさがしてネット」をつなげます。</li> </ul>
とどく	情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰もが困っている人に手を差し伸べられるまちをつくらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプラザの講座やイベントなどを利用し、地域に今以上に情報が届くよう、仕組みづくりをします。</li> <li>・各委員の行事や情報がより一層届くよう工夫して取組みます。</li> </ul>
	早期発見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・推進委員会で検討します。</li> <li>・「あすなるさがしてネット」の仕組みをより多くの地域の人に知ってもらうためのチラシやポスターを作成し、徘徊している人への声かけや早期発見ができるようにします。</li> </ul>



運動会の様子



防災訓練の様子

## 6 ふり返りの仕方

地区別計画の策定委員会を発展的に改組し計画の推進委員会をつくります。「わたしたちのまちの取組」について推進委員会を定期的を開催して取組の達成状況を1年ごとにふりかえりとともに、新たな取組などを検討し、目標とする地域の姿を実現していきます。

## 7 最後に

準備会、策定委員会を順次開催してふりかえりや取組の方向などについて検討をすすめました。

皆さんの協力や支援をえながら、この計画をもとにして、新吉田あすなろ地区の福祉保健のまちづくりをすすめていきます。

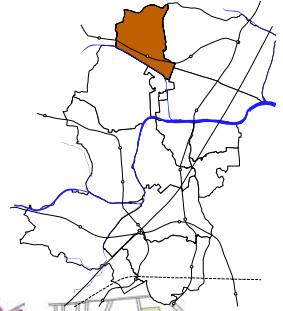
---

策定委員会のメンバー

新吉田あすなろ連合町内会、新吉田あすなろ地区社会福祉協議会

新吉田あすなろ地区民生委員・児童委員協議会

# みんなが笑顔、 助け合いのまち高田



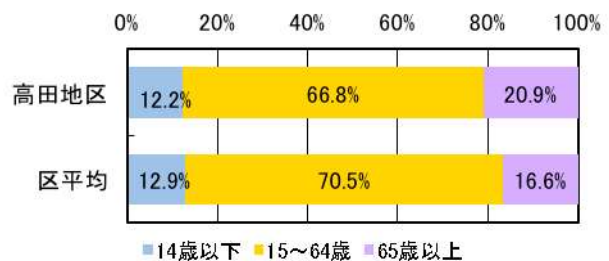
## 1 高田地区の人口

世帯数と人口

	世帯数	人口	平均世帯人員
高田地区	8,081	17,615	2.18
港北区	157,054	324,813	2.07

\*平成 22 年 9 月末現在

年齢3区分別人口構成



## 2 わたしたちのまちの特色

高田地区は、港北区の北東部に位置し、南部は戸建て住宅が多く、北部は農業振興地域として、畑と戸建て住宅が混在する地区です。南部では、平成 20 年 3 月に横浜市営地下鉄「グリーンライン」が開通し、駅周辺の整備も進んでいます。

高齢化率は 20%を超え (H21.3)、区内では 2 番目に高齢化が進んでいる地区です。一方、子育て世代の流入は、区の平均に比べてやや低くなっており、ここ 10 年間では人口の大きな増減は見られません。

地区には 8 つの自治会町内会があります。

## 3 これまでの頑張り

高田地区では、幾つかの自治会町内会が、災害時要援護者名簿を作成し、自治会町内会の各班長毎による名簿の所有・更新、マップに災害時要援護者情報を記載するなどの対策を進めてきました。

災害時要援護者対策が進んでいない地区においても、敬老の日に合わせ、高齢者の名簿づくりなどを行い、おおよその状況把握をしています。

## 4 これから目指していく姿

各自治会町内会の特性や状況に即した災害時要援護者対策を行い、各地域ごとにステップアップしていきます。

災害時要援護者対策への取組を通じ、となり近所の関わり、人と人のつながりをつくれます。

## 5 わたしたちのまちの取り組み

災害時に、要援護者が適確に避難できるような支援体制を整備するため、各自治会町内会で次の取り組みを推進します。

キーワード		取 り 組 み	
		目 標	具 体 策
つながる	理解	災害時要援護者支援・近隣の助け合いの必要性に関する理解を広げます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>住民アンケートを行い、必要性を喚起します。</li> <li>災害時の連絡網づくりの必要性や名簿作成の気運／雰囲気をつくります。</li> <li>一般の人に防災訓練参加を促すことで、体制づくりの基盤をつくります。</li> </ul>
	担い手	災害時要援護者の近くで、協力の輪を広げます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての自治会町内会エリアに協力者を配置します。</li> </ul>
つながる	知る	災害時要援護者を把握し、支援体制をつくります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者を把握します。</li> <li>把握している要援護者を3分類し、情報の更新を行い、自治会町内会長が把握します。</li> <li>把握している要援護者をリスト化し、定期訪問等により情報を更新します。</li> </ul>
	活動	自治会町内会と民生委員が連携し、災害時要援護者支援の体制をつくります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害時要援護者名簿を自治会町内会と民生委員で共有します。</li> </ul>
ひびく	情報	自治会町内会と地区社協が連携・協力し、要援護者支援の取り組みが地域に広く届くようにします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>高田地区社会福祉協議会の機関誌「翔」にコラムを設け、逐次取り組みを紹介していきます。</li> </ul>
	発見 早期	災害時のみでなく、普段から見守りを行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>要援護者名簿を基にし、災害時のみでなく、普段から見守りを行う体制づくりを継続して行います。</li> </ul>

## 6 振り返りの仕方

計画策定委員会を計画推進委員会へ移行し、各自治会町内会ごとに取り組みを振り返ります。

## 7 各自治会町内会の取組

	取組み	
	目 標	具 体 策
<b>親和会・自治会しらすか</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在取り組んでいる要援護者支援の取組みを継続します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各班ごとに作成している緊急連絡先の入った要援護者名簿（3種類に分類）の情報を毎年更新し、町会長が把握します。</li> <li>・数年に一度、町会長と民生委員は協力して名簿情報を見直します。</li> </ul>
<b>中央町内会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援者の人材の輪を広げます。</li> <li>・要援護者マップの精度を上げます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者の近くで、協力の輪を広げます。</li> <li>・全ての町会エリアに協力者を配置します。</li> </ul>
<b>高田町内会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者名簿を作成します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし要援護者を把握します。</li> </ul>
<b>東町会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者の支援の体制をつくります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般の人に防災訓練参加を促すことで、体制づくりの基盤をつくります。</li> </ul>
<b>住宅親交会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者名簿を作成します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし要援護者を把握します。</li> </ul>
<b>西原自治会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者名簿作成の理解を深めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要性を喚起するための住民アンケートに取り組みます。</li> <li>・災害時の連絡網づくりの必要性や名簿作成の気運／雰囲気をつくります。</li> </ul>
<b>住宅自治会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者リストをもとに、現在の取組みを継続します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要援護者リストの情報の更新を行います</li> <li>・普段の見守りの会「ハートの会」を中心とした、災害時の対応を行います。</li> </ul>

## 8 「みんなが笑顔、助け合いのまち高田」計画策定委員会

委員長 大賀 和夫

副委員長 宮田 光明

策定委員 高田町連合町内会、高田地区社会福祉協議会、高田地区民生委員児童委員協議会





## ご存知ですか？ 地域を支えている様々な人や団体があることを・・・。

普段の生活が、誰にとっても安心・安全であるために、日々、様々なかたちで地域を支えている人や団体が港北区内にはたくさんいます。

ひっとプラン港北の地区別計画・区全体計画を作る際には、こうした方たちも策定委員会に参加し、暮らしの中の身近な課題や自分の活動を通して感じることを計画に入れました。



### 民生委員児童委員／主任児童委員

厚生労働大臣から委嘱を受けて、住民が安心して暮らせるように、必要な相談や支援を行っています。たとえば、高齢者の見守り訪問や子育てサロンを開催するなど、生活に寄り添った活動をしています。



### 保健活動推進員

横浜市長から委嘱を受けて、住民が健康な生活を送るお手伝いをするため、生活習慣病予防に関するウォーキング教室や体操教室などを行っています。



### 地区社会福祉協議会

地域の福祉に関する団体、個人、専門機関が集まって構成された組織です。「自分の地域は自分達で良くしていこう」という気持ちで高齢者・障がい者・子育て支援など様々な事業を行っています。

### 3 地域ケアプラザの地域支援

地域ケアプラザは、住み慣れた地域で誰もが健康で安心した生活ができるように、地域の特性にあった様々な自主事業を企画・開催して、地域の福祉保健活動の推進・支援を行ったり、地域の身近な相談窓口として、介護保険やその他のサービスを上手に利用するための様々な支援を行ったりしています。

港北区内には、8つの地域ケアプラザがあります。それぞれのケアプラザが地域特性にあわせた特色のある活動を通じて「ひっとプラン港北」の地区別計画を支援しています。

地域ケアプラザ (担当地区)	地域ケアプラザの地域支援
下田 地域ケアプラザ (日吉)	日吉地区は、区内最大の面積と人口を有する地区であり、課題やその捉え方も5つの地区民生委員児童委員協議会ごとに違いがあります。それら住民自身が感じられている課題解決と同時進行できるような自主事業を企画し、常に地域と施設とが協働を意識できるよう積極的に働きかけて、取り組みを進めていきます。
	<b>住所</b> 港北区下田町 4-1-1 <b>電話</b> 563-9081
日吉本町 地域ケアプラザ (日吉)	日吉地区は、高齢者世帯、若い世代ともに人口流入が多いので、まず、ケアプラザを知っていただく施設のPRを行いながら、幅広い世代に向けての企画を立てていきます。ケアプラザを拠点として、以前から住んでいる方と新しく住まれる方の出会いや交流の機会や場の提供、世代を超えた交流などが進むように事業に取り組んでいきます。
	<b>住所</b> 港北区日吉本町 4-10-A <b>電話</b> 566-0360
樽町 地域ケアプラザ (綱島、大曾根、樽町、師岡)	樽町地域ケアプラザは、高齢世帯の多い地区や子育て中の若い世代が急増している地区、そして、山坂など起伏に富んだ地区等、様々な地域の特性をもった広域なエリアを担当しています。このニーズや課題等を地域の皆様と協働し、「ひっとプラン港北」と照らし合わせながら各種事業等を推進して、『ひっと』な町づくりを積極的に支援します。
	<b>住所</b> 港北区樽町 1-22-46 <b>電話</b> 532-2501
大豆戸 地域ケアプラザ (菊名、太尾)	太尾地区の「あいの町太尾」、菊名地区の「みんなで支えあうまちづくり」を共に作り上げるため、幅広い世代を超えての自主事業を展開し、お互いの交流を図り、顔見知りの関係作りを行います。また、ケアプラザの専門性を生かした、介護保険・介護予防の出張講座を通し、町内会館や自治会館等、地域にどんどん出向き啓発活動に努めます。
	<b>住所</b> 港北区大豆戸町 316-1 <b>電話</b> 432-4911
篠原 地域ケアプラザ (篠原)	篠原地区は住宅街が多い半面、自然も多く残っており常に四季の移り変わりを楽しむことができます。地域活動への意識が高い方が多く、ケアプラザの自主事業にも多くの方が参加しています。地域交流と包括支援センターが連携した事業も多く実施しています。地域の様々な世代の方・団体の方が協働して活動を進められるようお手伝いをいたします。
	<b>住所</b> 港北区篠原町 2-15-27 <b>電話</b> 423-1230
城郷小机 地域ケアプラザ (城郷)	城郷小机地域ケアプラザでは地域における高齢者支援、子育て支援、障がい児者支援の充実安心安全なまちづくりを目指し、福祉情報の発信と福祉ボランティア活動の支援を通して地域福祉活動を啓発促進し地域福祉拠点としての役割を果たせるよう努めます。地域の力による「たすけあうまち城郷」づくりの支援を積極的に推進してまいります。
	<b>住所</b> 港北区小机町 2484-4 <b>電話</b> 478-1133
新吉田 地域ケアプラザ (新羽、新吉田、新吉田あすなろ)	新吉田、新吉田あすなろ、新羽地区は高齢者や障がい者の施設が多数あり、駅やバス通り沿いから離れると田畑も多く、農家を営む家もあります。若い世代の流入も増加してきている地域もあるので、今後は地域の学校や自治会、福祉施設などとの繋がりを強固なものとし、世代を超えた交流や事業を展開していき、いつでも誰でも利用できるケアプラザを目指します。
	<b>住所</b> 港北区新吉田町 6001-6 <b>電話</b> 592-2151

<b>高田 地域ケアプラザ (高田)</b>	高田地区は、区内で2番目の高齢化率となり、地域内も山坂が多い事から高齢者、要援護者に対する防災対策に取り組むことになりました。地域ケアプラザでは自主事業の実施を通し、これら支援の輪を広げていき、包括支援センター機能等を活かし課題の抽出、及び解決に向けて地域と協働して支援していきます。
	<b>住所</b> 港北区高田町 2-14-6 <b>電話</b> 594-3601

## ひっとコラム



# 困ったときに相談できる場所は？

区内には、8つの地域ケアプラザの他にも身近な相談場所があります。

### ♡【どろっぶ《港北区地域子育て支援拠点》】

「子育ての不安や悩みの相談」を受け付けています。専門の相談員による相談日には、個室でお子さんと一緒に相談を受けることができます。また、日常的な、ちょっとした相談はいつでも出来ます。

港北区大倉山 3-57-3      ☎540-7420

### ♡【おやこの広場びーのびーの・こんぺいとう《親と子のつどいの広場》】

子育て中の親子同士が気軽につどい交流する場です。子育ての相談や情報提供も行なっています。

おやこの広場 びーのびーの    港北区篠原北 1-2-18      ☎439-7447  
 こんぺいとう                      港北区日吉本町 4-1-55-101      ☎628-9510

### ♡【港北保育園《育児支援センター園》】

地域の子育ての拠点として育児相談を受け付けています。施設の開放・育児講座・親同士や園児との交流・子育てに関する情報提供なども行なっています。

港北区仲手原 2-20-19      ☎421-8589

### ◆【しんよこはま地域活動ホーム】

地域生活支援センター海 相談室《障害者地域活動ホーム》

障がい児・者が安心して自立した生活を送るための情報提供や一般的な相談はもとより、緊急時の対応や行動障がい等の個別的な相談などにも応じています。

港北区日吉 2-6-20 ビーハイブ 1階      ☎566-7110

### ◆【横浜市高次脳機能障害支援センター】

脳出血、脳梗塞などの病気や事故による頭部外傷などの後遺症でお悩みの方、専門スタッフがリハビリ訓練や復職・復学支援などの相談をお受けします。

港北区鳥山町 1770 横浜市総合リハビリテーションセンター内      ☎472-4722

### ◆【港北区生活支援センター《精神障害者生活支援センター》】

精神障害のある方々の日常生活の支援・相談を行なっています。電話・面接・訪問による相談のほか、交流やくつろぎの場の提供、食事や入浴の生活サポートも行なっています。

港北区鳥山町 1735      ☎475-0120

★ 他にもインターネットで検索できる情報がたくさんあります。

子育て情報・ココマップ

ココマップ  検索

障害福祉の案内(横浜市)

横浜市 障害福祉  検索

高齢者福祉保健の知恵袋

高齢者福祉 知恵袋  検索

## 4 区全体計画

区全体計画は、13 地区の「ひろがる」「つながる」「とどく」の取組がスムーズに行なわれるように地区別計画を推進・支援するものです。

また、区と区社協は互いに協力して、地域だけでは解決できないことにも区全体で取り組みます。

### (1) 地区別計画への支援

#### 地域活動を担う人材を広く集めます

##### ●担い手の育成・発掘

区民活動支援センターと区ボランティアセンターとが連携し、担い手を募集している団体と活動に参加したい人を結びつける場をつくります。新規人材の発掘のために、学校と地域の連携を支援します。

##### ●担い手の交流

区全域で高齢者支援・子育て支援などの活動をしている個人・団体と、自治会町内会など地域に根差した活動をしている個人・団体が顔の見える関係をつくり、共通の目標をもって協働できる仕組みづくりを行います。

##### ●担い手不足への対応

福祉保健活動を行っている団体にヒアリングを行うなどして担い手不足の実態を調べ、対策を検討します。

#### 地域活動が円滑に行えるように支援します

##### ●地域活動団体の負担軽減の検討

区役所・区社協から地域への依頼事項について、団体役員のご意見を伺いながら、負担が軽減される方策を検討します。

##### ●個人情報保護に関する課題の検討

高齢者の見守り活動などを行う際に、地域が必要としている個人情報の取り扱いについて、区役所と地域の連携方法を検討します。

#### ※ 課題解決の糸口

地域の活動に無関心な人が多くて新しい担い手が増えないんだよ。



人を増やすのも大事だけど、いったい何が足りないのか、みんなでも考えてみないといけないね。



民生委員に町内会役員・・・何役もやらされて忙しくて大変！なんとかして！



区役所や区社協の方でも、何か考えてくれないかしら。

## 地区別計画の推進を応援します

### ●地区別計画推進のための支援

区役所・区社協・地域ケアプラザの職員から成る地区別計画サポートスタッフが、各地区の状況に応じた支援を行います。あわせて、各地区別計画を幅広く地域住民へPRします。

### ●港北ほくほくフェスタ・活動報告発表会の開催

地域の福祉保健活動の発表の場を設け、地域を越えたネットワークづくりのきっかけを作ります。

## 福祉保健に関する活動を支援します

### ●地域の事業応援

福祉保健を行っている団体の事業の登録制度を作り、積極的に広報する、地域へ情報提供を行うなど、更に団体同士のネットワークの促進に繋がります。


### ●自主的な福祉保健活動への助成

区役所の「地域のチカラ応援事業補助金」及び区社協の「港北みんなの助成金」を通じ、地域の自主的な取り組みを支援します。

### ※ 課題解決の糸口


区役所や区社協は地域に対して口ばかり出すくせに、何も手伝ってくれないよね。



うちの地区の担当だと言う課長さんが来て、新しい事業の説明をしてくれたよ。地域のイベントにもたくさん手伝いに来てくれるんだよ。

地域で見守り活動を始めたけど、今の世の中なかなか信用してくれなくて話が進まないのよね。



例えば「区が応援する事業です」とか後押しがあれば、周りの目も違って活動しやすくなるのかもしれないね。

## 情報を収集し提供する 仕組みづくりを進めます

### ●福祉保健に関する情報発信

ホームページなどを通して港北区全体の福祉保健に関する団体の情報を提供します。

### ●ホームページ作成支援

地域が福祉保健に関するホームページを自ら作成・更新できるよう講師を派遣するなどの支援を行います。

### ●障がい者の移動支援に関する情報提供

送迎サービスに関する情報を集約し、公共交通機関を使った外出が困難な障がい者の方々へ適切な情報提供を行います。

## 必要なサービス・相談支援が 届く仕組みづくりを進めます

### ●高齢者・子育て世帯の孤立防止、虐待の予防・早期発見への取り組み支援

普段からの近所づきあいやあいさつなど日常的な見守り活動の重要性、早期発見・通報の必要性などの啓発と、相談支援体制の充実を図ります。

### ●貧困の世代間連鎖への対策の検討

貧困の世代間連鎖を断ち切るため、大学やNPO・地域社会との協働による支援策について検討します。

### ※ 課題解決の糸口

町内の運動会が小雨決行だったんだけど、集まりが悪かったなあ。ホームページで周知なんて町内会じゃ無理かなあ。



最近ホームページを開設した地域があって、役所に相談すれば詳しい人を紹介してくれるらしいよ。

虐待の話を知ると心が痛むけど、だからと言って周りは何も出来ないわよね。



普段からの付き合いが一番大切だけど、いざと言う時の通報先や相談先も知っておくと大切な命を助けられるわよ。



## 「え！全日制高校の進学率が56.3%？」

これは、生活保護を受けている中学生の進路状況です。（平成21年度横浜市）

もちろん、様々な境遇にも負けずしっかりと目標を達成する子ども達もたくさんいますが、貧困などにより、思うような進路に進むことができず、結果的に貧困からなかなか抜け出せない子ども達もいます。このような「貧困の連鎖」が社会的な問題となっています。

国もこれに対し、様々な対策を始めていますが、地域の助け合いで何かできることはないでしょうか。

学習塾に行くことができない子どもに、大学生のお兄さんがボランティアで勉強を教えたり、地域の大人が相談に乗ってくれる心地よい居場所があったり・・・

ひっとプラン港北では「貧困の世代間連鎖への対策」についても取り組みます。

地域の支援により、全ての子どもたちに未来と可能性を開くことができます。

## (2) 区全体での取組

### 区役所の取組

【子育て関係の主な取り組み】

＜地域振興課、福祉保健課、こども家庭支援課＞

取組内容	取組例
○ 子育て当事者、地域、関係機関とのつながりを活用し、地域で子育てを支えあう仕組みをつくりまします。	・交流会や研修を通して、港北区の子育て支援を進めていきます。
○ 妊娠・出産時や転入時、乳幼児健診などの様々な機会をとらえて、地域の子育て支援情報を届けまします。	・関係機関と協力し、子育て応援メールマガジン「ココめ〜る」を配信しまします。
○ 子育て支援の第1歩としてより多くの乳幼児に離乳食支援を行います。	・身近な地域ケアプラザを会場にした離乳食教室を開催しまします。
○ 地域で孤立しがちな子育て世代を対象に、様々な交流の場づくりを行います。	・未就学児とその保護者のための家庭教育学級を開催しまします。 ・赤ちゃん会を通じての子育てをしている親同士の仲間づくりを支援しまします。

【高齢者関係の主な取り組み】

＜高齢・障害支援課＞

取組内容	取組例
○ 高齢者が孤立せず、住み慣れたまちで安心して生活し、住民同士の交流、支え合い、見守りが活発に行われる地域づくりを支援しまします。	・出張健康講座や、地域で活動する介護予防グループの支援を行います。 ・認知症や介護保険などの相談に応じまします。
○ 認知症、虐待の予防と早期発見・対応に関する啓発・普及に取り組み、介護者の支援と共に、地域住民の理解を深めていきます。	・認知症高齢者の徘徊、虐待予防に関する啓発活動を行います。 ・介護者向けセミナーや介護者のつどいを支援しまします。



## 区役所の取組

### 【障がい関係の主な取組】

<高齢・障害支援課、こども家庭支援課>

取組内容	取組例
○ 障がいのある人も地域で安心して生活できるよう支援します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児の余暇活動を支援します。</li> <li>・精神障がい者の居場所づくりを支援します。</li> <li>・地域作業所自主製品等の販売促進を支援します。</li> <li>・障がい理解促進のための啓発を行います。</li> <li>・支援者ネットワークの強化を図ります。</li> </ul>

### 【健康づくり関係の主な取組】

<福祉保健課>

取組内容	取組例
○ 生活習慣病予防や健康に関する意識が高まるよう、保健活動推進員や食生活等改善推進員と連携しながら、区内の健康づくりに関する取り組みを支援します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーキング等を通じた健康教室を開催します。</li> <li>・地域での健康づくり教室を支援します。</li> </ul>

### 【災害時要援護者支援の取組】

<総務課、福祉保健課、高齢・障害支援課>

取組内容	取組例
○ 災害時に避難に手助けが必要な方々の支援体制を整備するとともに、日頃から地域で見守り活動が行われる仕組みづくりを支援します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区役所が保有する要援護者（避難に手助けが必要な人）の情報をルールに基づいて、地域に提供します。</li> <li>・個人情報の取扱いに関する研修を実施します。</li> <li>・地域で取り組む際の内規（ルール作り）の支援をします。</li> </ul>



## 区社協の取組

取組内容	取組例
<p>○ 地域の福祉活動の支援を行います。 地域住民が主体となって地域の福祉活動を進められるように、ケアプラザと連携して地域の課題分析・整理を進め、地区社会福祉協議会の活動支援を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区社協啓発用リーフレットを発行します。</li> <li>・地域力検定(地区社協活動の自己診断)を推進します。</li> <li>・地域ケアプラザと連携し、地域の課題発見や支援方法を検討します。</li> </ul>
<p>○ 福祉保健団体の活動支援を行います。 港北区内で活動する福祉保健団体が円滑に活動できるように、港北みんなの助成金や他団体との情報交換の場の提供を行います。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・港北みんなの助成金事業を実施します。</li> <li>・区社協分科会活動を通じた区域でのテーマ別課題検討を行います。</li> <li>・福祉保健活動拠点(活動の場の提供)を運営します。</li> </ul>
<p>○ 直接サービスを提供します。 地域だけでは解決が難しい課題に対し、港北区社会福祉協議会として、事業を行い、サービスを届けます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の移動支援に関する情報提供を行います。</li> <li>・送迎サービスを実施します。</li> <li>・あんしんセンター(日常生活自立支援事業)事業を実施します。</li> <li>・ボランティアセンターを運営します。</li> <li>・生活福祉資金を貸し付けます。</li> </ul>
<p>○ 福祉保健に関する情報を収集し、提供します。 福祉保健活動団体の情報収集提供や広報誌やホームページを通じて福祉に関する情報提供を行い、福祉への関心を高めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民活動支援センターと連携し、コボット(港北ボランティアネットワーク)Web版を活用して、福祉保健活動団体に関する情報提供を行います。</li> <li>・ふくしのまど(区社協広報誌)を通じて福祉に関する情報を提供します</li> <li>・ホームページを通じてタイムリーな情報提供を行います。</li> </ul>

# 「ひっとプラン港北」ができるまで

平成22年

6月

- ☆「港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画」の愛称が「ひっとプラン港北」に決定
- ☆地区別計画ガイドライン発行。地区別計画・区全体計画の策定が本格的にスタート

12月

- ☆計画素案の策定  
区全体計画の「素案」に対する区民意見募集

平成23年

2月

- 集まった区民意見をふまえて、計画の最終案を作成

ひっとプラン港北策定委員会での協議

3月

- ☆計画の完成

4月

- ☆「ひっとプラン港北」スタート☆

ひっとプラン港北の策定経過については、ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.city.yokohama.jp/me/kohoku/fukuho/fukuhoikeikaku.html>

ひっとプラン港北

で

検索



「ひっとプラン港北」策定委員 委員名簿

<50音順・敬称略>

氏名	所属	備考
井上 禮子	港北区ボランティア連絡会会長	
内海 宏 〈委員長〉	(株)地域計画研究所 所長	
大賀 和夫	港北区連合町内会会長	
大原 日恵	港北区社会福祉協議会障がい者セーフティーネット分科会会長	
奥山 千鶴子	NPO法人びーのびーの理事長	
金子 安夫	港北区社会福祉協議会地区社会福祉協議会分科会会長	第1回参加
小杉 久仁男	港北区社会福祉協議会地区社会福祉協議会副分科会会長	第2回 から参加
内藤 英二	港北区医師会会長	
中山 宏	港北区社会福祉協議会地区社会福祉協議会分科会副会長	第1回参加
藤村 昇	港北区老人クラブ連合会会長	
本田 和徳	港北区地域自立支援協議会	
宮田 光明 〈副委員長〉	港北区民生委員児童委員協議会会長	
由井 昌子	港北区保健活動推進員会会長	
横木 茂樹	港北まちづくり区民の会会長	
横溝 茂	港北区社会福祉協議会地区社会福祉協議会分科会会長	第2回 から参加

第1回 平成21年12月24日

第2回 平成22年6月3日

第3回 平成22年9月2日

第4回 平成22年12月2日

第5回 平成23年3月24日

「ひっとプラン港北」地区別計画検討部会 委員名簿

<50音順・敬称略>

氏名	所属	備考	
雨宮 麻子	ワーカーズコレクティブほっと 代表	配食サービス	
井上 雅人	港北区地域ケアプラザ所長会	下田地域ケアプラザ	第4回 から参加
内海 宏	(株)地域計画研究所 所長	策定委員会委員長	
神島 理恵子	日吉キッズステーション 代表	子育て支援	
畔柳 実栄	あおぞら会汽車ポッポ 会長	障がい児訓練会	
白鳥 千代子	港北区民生委員児童委員協議会 副会長	民生委員児童委員	
成富 正信 <部会長>	早稲田大学社会科学部 教授	学識経験者	
西谷 大介	港北区地域ケアプラザ所長会	篠原地域ケアプラザ	第1回から 第3回参加
藤井 文子	はあとネットワーク港北 代表	精神保健ボランティア	
藤岡 圭子	もみじの会 代表	ボランティア (ミニデイ・畑を使った交流)	
本田 和徳	港北区地域自立支援協議会 しんよこはま地域活動ホーム 所長	障害者地域活動ホーム	
前田 泰稔	横浜市高齢者体操指導員港北区代表	高齢者	
武藤 啓司	特定非営利活動法人楠の木学園 理事長	フリースクール	
矢代 哲雄	ほっと新吉田 代表	ボランティア (家事支援ボランティア)	
横溝 和子	港北区主任児童委員 代表	民生委員児童委員	

第1回 平成22年2月4日

第2回 平成22年3月4日

第3回 平成22年3月24日

第4回 平成22年5月17日

第5回 平成23年2月14日

## ひっとプラン港北

港北区地域福祉保健計画・港北区地域福祉活動計画

発行：平成 23 年 3 月

発行者：横浜市港北区福祉保健課

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26-1 港北区役所3階

[電話]045-540-2360 [FAX]045-540-2368

[Eメール] [ko-fukuhoplan@city.yokohama.jp](mailto:ko-fukuhoplan@city.yokohama.jp)

横浜市港北区社会福祉協議会

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町13-1 吉田ビル206

[電話]045-547-2324 [FAX]045-531-9561

[Eメール] [info@kouhoku-shakyo.jp](mailto:info@kouhoku-shakyo.jp)